

Design
Works
'22/'23



Department of Architecture
Setsunan University

ごあいさつ

平素より摂南大学理工学部建築学科の設計教育にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今年度は3年ぶりにキャンパスに賑わいが戻り、新たな1年となりました。学生諸君は、オンラインを併用した対面授業では事前に動画で学習したり、演習では教室を出て、寝屋川キャンパスの新校舎建設現場や梅田スカイビルの見学など、さまざまな形で学習に取り組みました。4年生は、学部での学びを応用した集大成として、卒業論文、卒業設計に取り組み、1月には「卒業研究発表審査会」、2月には「第16回卒業研究作品展」を滞りなく終えることができました。作品展では、展覧会用にブラッシュアップした卒業研究成果が展示され、論文・設計の各講評会では学外の建築家、実務家、研究者をお招きして熱のこもった議論が交わされました。そのすべてが建築学科の貴重な財産と感じております。ご支援いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

当学科では、計画・環境系と構造・生産系の2つの教育系統を軸に、社会における実践的課題に対処していく力を培うために、多彩な角度から建築に関わる知識と技術を習得し、感性をみがくことを目指した研究・教育活動に励んでおります。特に設計演習や卒業設計では、複雑化する社会・環境への眼差しと課題の理解、空間を創造する楽しさを重視し、1年次から4年次まで多様な課題にチャレンジしています。実社会における建築の社会的役割を踏まえて多数の現役建築家を講師に迎え、学生と一緒に開かれた議論を行うとともに、先端の情報を共有する授業環境づくりにも努め、Revitやムービー制作の情報系科目と連動したデジタルと手描きの双方向による設計教育も進めています。また、建築系キャリア教育では企画開発、設計（意匠・構造）、施工管理の各方面で活躍する卒業生をゲストスピーカーに迎え、在学生には大きな刺激になりました。なかでもゲストのひとり、若手建築家の斧田裕太氏（+O design、SDレビュー2021入選）、新森雄大氏（大阪万博会場コンペ・休憩所設計者に選出）の活躍は、建築学科スタッフ一同の喜びと励みになりました。

本作品集は今年度の学生の作品から優秀作品を選抜し、当学科における設計教育全体の取り組みをご紹介しますのでございます。学科一同、学生・教員がともに成長する教育環境を目指してこれからも努力してまいります。

今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年3月

摂南大学 理工学部 建築学科長

大谷由紀子

INDEX

4年生作品【卒業設計】

山と一体になる	西原大翔	4
伝統工芸との邂逅 その場所の記憶を受け継ぎ、伝統工芸と建築との繋がりを生み出す	浅野心咲	5
船待つ蔵 一天橋立におけるウォークアブルな空間の提案	井浪千尋	6
編む ～地域を繋ぐ架け橋～	井上舞香	7
ひと繋ぎの山道 失われた緑地を地域へと開く	桂瑛	8
無意識への帰結 ～劇場型広場の身体化～	黒田健太郎	9
個と全の共創 ～道広場のプロトタイプ～	小傳茂友貴	10
巡り廻る ～駅前広場の再編～	米田朱里	11
建築全体に想像力と遊びを	澤紫月	12
RURBAN DESIGN 生産緑地を持続可能にするスキームを築き、未来に遺す	椎木椋太	13
あきん廊 ～豊富な地域資源を発信する道の駅～	千崎裕太	14
銭湯物語 ～民衆の小さな楽しみ～	高橋晴大	15
縦型商店街 ～公と私のグラデーション～	中西立龍	16
その場所で学び、経験する ～子どもの居場所と地域の共存～	東賢太郎	17
まちを描く建築	肥田顕悟	18
CIRCULAR CITY ～木で創る近未来の暮らし～	望月誠太	19
鶴橋商店街の再興計画 商店街の新たなかたち	山本修	20
OCEANVILLE 水位レベル問題を解決する新しい居住地への強靱で多様なグリーン都市	ケア アリヤ タノコ	21

3年生作品【建築設計演習A】

前半課題／「学校の再構築」／地域にひらく小学校	秋山彩夏	22
前半課題／「学校の再構築」／風が生み出す空間	有本卓矢	22
前半課題／「学校の再構築」／「つながる小学校」	猪股溪登	23
前半課題／「学校の再構築」／居場所となる小学校	大江航輝	23
前半課題／「学校の再構築」／∞の学び	木ノ下翔太	23
前半課題／「学校の再構築」／つながる花びら屋根の小学校	小西一颯	24
前半課題／「学校の再構築」／～提案書～	野中悠太	24
前半課題／「学校の再構築」／街を作る学校	宮添燎海	24
後半課題／小学校の設計／集まる小学校	林さくら	25
後半課題／小学校の設計／まちのテラス	鞠山もも	25
後半課題／小学校の設計／坂との共生	田村優澄	26
後半課題／小学校の設計／愛され小学校	森華菜	26
後半課題／小学校の設計／思い出される学校	コ キャロリン シンディー	26

3年生作品【建築設計演習B】

第四課題／地域の拠点となる建築／「介護福祉」／Re：ぶどうの街	木ノ下翔太	27
第四課題／地域の拠点となる建築／「介護福祉」／通り抜けで交流を生む拠点	奈須智希	27
第四課題／地域の拠点となる建築／「シンボル性」／NAKAMOZU Redevelopment Project	大森慧斗	28
第四課題／地域の拠点となる建築／「シンボル性」／天満橋再開発 ～登り降りで見える景色～	小西一颯	28
第四課題／地域の拠点となる建築／「文化・芸術」／流 ～町を育てる拠点～	大江航輝	29
第四課題／地域の拠点となる建築／「商圈」／渡る街並み 歩道兼アーケードによる商店街と地域の再興計画	田村優澄	29
第四課題／地域の拠点となる建築／「商圈」／よりみちショップ	森華菜	30
第四課題／地域の拠点となる建築／「公共(行政)」／HINODE Arcade ーシャッター街化した商店街の新しいカタチー	多田紋都	30
第四課題／地域の拠点となる建築／「公共(行政)」／Toyonaka Mobility Suburbanism	堀翔音	31
第四課題／地域の拠点となる建築／「公共(行政)」／「川辺の洞穴 ーRiver Side Denー」	宮添燎海	31

2年生作品【建築設計製図A】

第一課題／SU Visitor Center ～通り抜けできるキャンパス～／地域にひろがる Visitor Center	片山美紘	32
第一課題／SU Visitor Center ～通り抜けできるキャンパス～／THE ROCK	田中柚衣	32
第一課題／SU Visitor Center ～通り抜けできるキャンパス～／巡り 繞って 廻る ～昭和、平成、令和のギャップ～ (見てまわる)(周りを取り巻く)(ぐるぐるまわり元へ戻る)	永田美羽	32
第一課題／SU Visitor Center ～通り抜けできるキャンパス～／回遊の間	西出侑里香	33
第一課題／SU Visitor Center ～通り抜けできるキャンパス～／円い空間から生まれるもの	船瀬歩	33
第一課題／SU Visitor Center ～通り抜けできるキャンパス～／散歩中の喋り場	向千里	33
第二課題／中之島公園を臨むワークプレイス／階段で繋がるオフィスビル	上島葵	34
第二課題／中之島公園を臨むワークプレイス／溶け込むオフィス	片山美紘	34
第二課題／中之島公園を臨むワークプレイス／緑のある空間	仙田直希	34
第二課題／中之島公園を臨むワークプレイス／中之島号	田中柚衣	35
第二課題／中之島公園を臨むワークプレイス／斜界ビル	土谷和輝	35
第二課題／中之島公園を臨むワークプレイス／繋ぐ	出越美紀	35

2年生作品【建築設計製図B】

第一課題/まちの美術館：吹き抜けのある市民のためのアートパーク/ Nakanoshima art square	片山美紘	36
第一課題/まちの美術館：吹き抜けのある市民のためのアートパーク/八面玲瓏	黒川莉子	36
第一課題/まちの美術館：吹き抜けのある市民のためのアートパーク/街路	仙田直希	36
第一課題/まちの美術館：吹き抜けのある市民のためのアートパーク/都市と自然を繋ぐ場所	西出侑里香	37
第一課題/まちの美術館：吹き抜けのある市民のためのアートパーク/見せる背景	向千里	37
第一課題/まちの美術館：吹き抜けのある市民のためのアートパーク/丘の美術館	吉田美緒	37
第二課題/コミュニティ・ライブラリーー混在するアクティビティー/「200」	仙田直希	38
第二課題/コミュニティ・ライブラリーー混在するアクティビティー/空間を感じる図書館	橘香奈	38
第二課題/コミュニティ・ライブラリーー混在するアクティビティー/屋根で繋がる	田中柚衣	39
第二課題/コミュニティ・ライブラリーー混在するアクティビティー/本と、その先にあるものーガラスの図書館ー	船瀬歩	39
第二課題/コミュニティ・ライブラリーー混在するアクティビティー/マルチな図書館	宵田茜	40
第二課題/コミュニティ・ライブラリーー混在するアクティビティー/マチのかたち	渡邊光輝	40

1年生作品【建築基礎演習A】

第一課題/鉄筋コンクリート造住宅の図面トレース	岡田将弥	41
第一課題/鉄筋コンクリート造住宅の図面トレース	岡本紗奈江	41
第一課題/鉄筋コンクリート造住宅の図面トレース	瀬戸虎太郎	41
第一課題/鉄筋コンクリート造住宅の図面トレース	竹中幹人	42
第一課題/鉄筋コンクリート造住宅の図面トレース	森山皓晟	42
第一課題/鉄筋コンクリート造住宅の図面トレース	吉村尚生	42
第二課題/鉄筋コンクリート造住宅の模型の製作	國澤晃一	43
第二課題/鉄筋コンクリート造住宅の模型の製作	富谷隼太	43
第二課題/鉄筋コンクリート造住宅の模型の製作	福田梨咲	43
第二課題/鉄筋コンクリート造住宅の模型の製作	吉村尚生	43
第二課題/鉄筋コンクリート造住宅の模型の製作	吉村真緒	43
第三課題/すわるカタチ	浦崎結	44
第三課題/すわるカタチ	瀬戸虎太郎	44
第三課題/すわるカタチ	姜和志	44
第三課題/すわるカタチ	樽井智哉	44
第三課題/すわるカタチ	中村美結	44
第三課題/すわるカタチ	西村凜	44
第三課題/すわるカタチ	原そよ風	44
第三課題/すわるカタチ	田淵丈翔	44
第三課題/すわるカタチ	山下真緒	44

1年生作品【建築基礎演習B】

第一課題/キャンパス内の休憩所/「ホームナーム」	石原稜太	45
第一課題/キャンパス内の休憩所/不自然な森	岡泰平	45
第一課題/キャンパス内の休憩所/木漏れ日のある休憩所	佐藤帆純	45
第一課題/キャンパス内の休憩所/ Sitting lounge	田原成一郎	46
第一課題/キャンパス内の休憩所/「Tree」	宮下巧	46
第一課題/キャンパス内の休憩所/ Respiration	吉村真緒	46
第二課題/みんなで〇〇をするいえ/「みんなで保護犬と暮らす家」	井口皓帆	47
第二課題/みんなで〇〇をするいえ/ theme:escape 現実を少し忘れて遊べるいえ	浦崎結	47
第二課題/みんなで〇〇をするいえ/皆で助け合う開放的な家	児玉武士	47
第二課題/みんなで〇〇をするいえ/みんなで音楽を楽しむ家	中郷陽咲	48
第二課題/みんなで〇〇をするいえ/食の家	吉村尚生	48
第二課題/みんなで〇〇をするいえ/ AQUA-HOUSE	ゲンミンタン	48

学外活動/卒業研究作品展

豊里町 Renovation Project / 建築学科卒業研究作品展 16	49
---	----

■ 2022年度卒業研究題目一覧	50
■ 2022年度摂南大学 建築学科スタッフ	52



卒業設計 山と一体になる 西原 大翔

大阪府と和歌山県の県境にある和泉葛城山は、豊かな自然環境を残す都市近郊の高山で、多くの人々が訪れるが、施設整備があまりされていない。かつて、人間の手によりかすかに整備された登山道や建築は、壮大な自然の中で、もはやその意味を失っているように感じられる。本研究では、和泉葛城山の山頂に休憩所と宿泊施設を設計及び登山道を整備し、山と一体になる建築の姿を提案する。



Site

和泉葛城山山頂の敷地は山体の南側斜面に位置する。敷地はラクガキまみれの売店の建屋と駐車所と化したただ広い空間から成る廃墟である。誰でも出入りができる状態になっているため、ドライブやツーリングの他に登山やバーベキューなどで多くの人が集まる場所となっている。

登山道の計画は A コースと呼ばれる山の麓から溪流沿いを登っていくルートを対象とする。道中にはハシカケノ滝と呼ばれる落差 10m 程の滝があり、滝を境に道の舗装が切れる。



山頂の敷地



ハシカケノ滝

Survey

計画敷地は広大な範囲かつ山間部ということもあり、正確な地図や現況が把握しにくい。しかし、具体的にどのような場所なのかを明らかにするために山の隅々まで探索する必要があるが、それには膨大な時間が必要になってしまう。

本計画ではデジタル機器・技術を駆使し短時間でより多くの情報を収集できないか検討した。最終的にシネマカメラ、ドローン、iPad を用いることで、6K の映像やフォトグラメトリに必要な画像、LiDAR で生成した点群データを取得し、詳細な山の環境を記録した。



フォトグラメトリで得られたメッシュモデル

Concept

和泉葛城山の荒廃を招いている要因を大きく 3 つに分ける。一つ目は施設の不十分さである。山頂付近には公衆トイレ、展望台、廃墟の空き地があるが、無法地帯と化している側面があり適切な整備が望まれる。二つ目は登山道の整備不足である。ハシカケノ滝から先は急激に険しい道となり危険な場所や迷いやすい場所も散見される。最後に荒れていく山の環境である。無法地帯化した山で人々がしたい放題することで山の環境は少しずつ本来の環境を失ってきている。



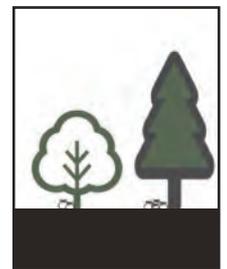
現状の荒れた環境を再生させ、人間の環境と山の環境の両方の顔を併せ持つ建築を目指し、和泉葛城山に起きている諸問題の解決に取り組む。



無法地帯化している



登山道の整備不良

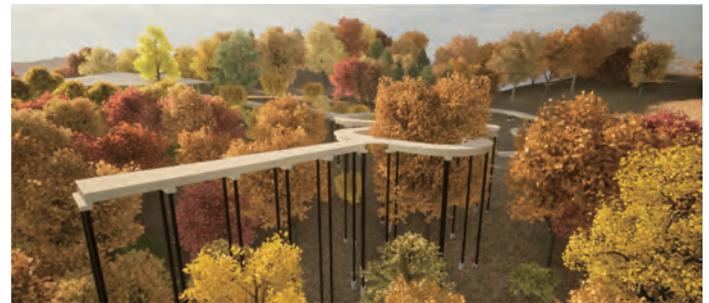


荒れていく山の環境

Plan



山頂配置図 S=1/2500



木々を避けて伸びる空中散歩路



森の中の宿泊施設



休憩所 南側斜面から見る



ハシカケノ滝の休憩所

日本建築家協会 近畿支部「学生卒業設計コンクール」学科代表作品



卒業設計

伝統工芸との邂逅 その場所の記憶を受け継ぎ、伝統工芸と建築との繋がりを生み出す 浅野 心咲

伝統技術の衰退現象における歴史・文化的背景や原因について研究し、現代の社会構造に適する維持可能な伝統工芸のあり方を計画することを目的として、伝統工芸の発展と伴う建築の形態や作り方の共通思考を生み出す。また、国内外からの人々が出会い、その場所での交流が生じるための建築計画やランドスケープを重視して、古き良き日本の伝統的な文化を世界注目されることを目指す。



研究背景

18世紀にイギリスで起こった産業革命までは、世界的な状況で言えば第一次産業に従事する人々が多く、非都市に暮らす人が多い状況であった。特に日本国内では自給自足の生活が主流であったため、手間と時間をかけて自らの手で物を制作し、その技術を代々受け継がれ、日本の伝統を形づくっていた。しかし産業革命後は、世界全体の構造が変わり、人々のこれまでの生活と価値観が根底から変えられた。現在、伝統工芸と呼ばれるものは、かつては普段生活で使用する道具として当たり前のように身の回りにあるものであったが、商品として貨幣と交換できるようになり、さらに現代では簡易に大量生産ができるようになった。日本特有な伝統工芸は衰退し、その伝承が途絶えている現象が見られている。このような背景から、伝統工芸技術と建築とを繋ぎ、今の社会に適する伝統のあるべき姿、その技術を伝承・維持可能な構想を建築を通して提案する。

計画概要

林業・木材産業を活性化するため、木材利用促進の対象を公共建築物から、民間建築物を含めた建築物一般へと拡大を反映し、木造を積極的に利用して計画する。観光施設と連携し、伝統工芸品を手頃な価格で土産物として発展させ、体験施設や教育施設での職人の育成など、地域の特徴を利用して現代社会に適する伝承可能な伝統工芸のあり方を生み出す建築を提案する。一方、計画敷地の周辺にある「山」と「川」といった要素に応じ、周辺の建物の高さや用途と合わせたうえ、柔らかなイメージを持つ曲線デッキと各ボリュームを繋げて計画する。

提案

多様な人の集積・交流の促進のためには、人々が惹きつけられ、地域住民と観光客が気軽に利用できることを求められる。よって敷地は観光地と住宅街の境界に選定し、メイン入り口を特定しないような構成とし、回遊性を重視した建物を提案する。敷地内は自由に歩くことが可能で、様々なシークエンスの変化が来る人を楽しませる。また、1・2階において飲食スペースや交流スペースをつくり活動を促したり、建築物内部の活動を積極的に見えるようにすることで内外の関係性がとぎれないようにする。

動線計画

観光客と地域住民がそれぞれ使いやすい動線を計画するほか、地上レベルでは公園のように建物に入ってくる場所がいくつもあり、誰でも気軽に入れるような、まちとの新しい繋がりをつくる。敷地内はエスカレーターやエレベーターなどが分散して配置する。また、スロープで主要なデッキには移動でき、それぞれの異なるレベルのデッキはスロープや階段で繋がれバリアフリーに配慮した動線計画となる。それぞれの個性と機能をもつデッキは、使い方に合わせて、その集合の仕方が様々に変化し、いろいろな空間を生み出す。

● 急車	● ギャラリー、展示室	● レストラン
------	-------------	---------

● 急車	● ギャラリー、展示室	● レストラン
------	-------------	---------

循環：エスカレーター
 店舗
 学校
 学校
 学校
 エスカレーター・ESL・スロープ
 学校
 階段
 エスカレーター
 エスカレーター
 エスカレーター
 通り抜け動線

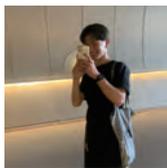
建物構成
敷地内にホテル、学校を東側、店舗棟を中央、レストラン棟を南側に基本的な配置をとる。それぞれのボリュームはデッキによって重なりながら平面的に広がるので、分断されることなく連続して一つの建物となる。

屋根伏せ図

計画敷地の周辺にある山と川といった要素に応じ、周辺の建物の高さや用途と合わせて、柔らかなイメージを持つ曲線デッキと各ボリュームをつなげて計画する。観光地と住宅街の境界線として、気軽に利用してもらうように、主要なファサードやメイン入り口を特定せずに提案する。一方、阪急嵐山駅から観光施設へのアクセスするのに通り過ぎる道として利用することができる。小さいボリュームと大きいボリュームを分けて、それぞれの役割を最大限に発揮させる。

- ・教育施設 (大ボリューム)
- ・ホテル (大ボリューム)
- ・店舗や体験施設 (小ボリューム)
- ・ギャラリーや展示施設 (小ボリューム)



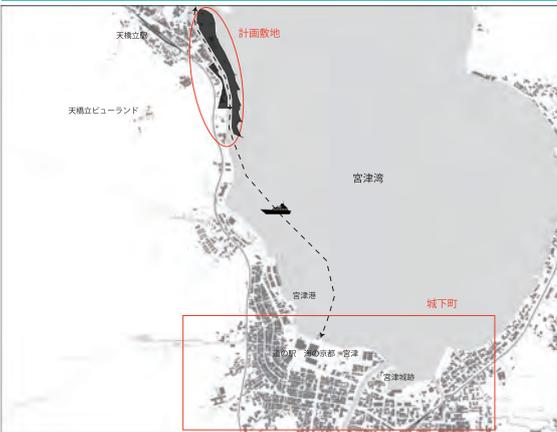


卒業設計 船待つ蔵 一天橋立におけるウォーカブルな空間の提案— 井浪 千尋

京都府宮津市は、日本三景・天橋立で知られ、多くの観光客で賑わう。しかし、近年人口減少や空き家の増加などの社会問題によって地域の活力が低下している。そこで、本計画では宮津市に蓄えてきた魅力的な資源や要素から手掛かりを得て、船着場兼コミュニティ施設を提案する。そして、天橋立に隣接する廃れた敷地をウォーカブルな空間にする提案をする。



計画敷地概要



敷地図 S=1/10000

計画敷地は、京都府宮津市文殊に位置し、日本三景・天橋立の南側に位置する。天橋立駅とあつての城下町の間にありそれらの間に位置する敷地である。日本海に面し、遊歩道があり、敷地沿いを観光船が走り、緑に囲まれているが、現在は空き家・廃工場などの廃れた空間、建物と遊歩道の繋がりがもなく、遊歩道の人通りも極めて少ない。

敷地計画



配置図 S=1500

船着場・展望塔・コミュニティ棟の3棟に加え、新たに第2の船着場を南側に設け、新しい動線計画を考える。そして、幅を広げた遊歩道沿いには様々なアクティビティを分散させ、様々な人が歩く目的・楽しさを持ち、今まで人通りがなかったみちには賑わいが生まれ、新たな人の流れができ、ウォーカブルなまちになる。

計画概要

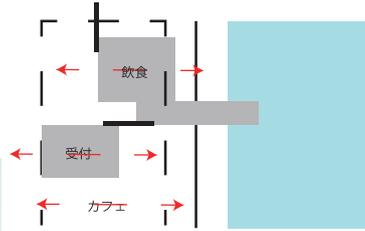
本計画では、宮津市文殊の天橋立に隣接する廃れた敷地の有効な活用方法を提案する。そこで、天橋立を起点として人が集まる船着場と展望塔とコミュニティ棟を宮津の歴史の資源から手掛かりを得て計画する。また、天橋立の特徴的な景観を守り伝える為、周辺と敷地内の繋がりを持たせる。そして、天橋立間のみ歩く人賑わう現状を変え、遊歩道を中心にウォーカブルなエリアとする。

城下町の記憶を蘇らせ継承する「蔵」をモチーフとした棟を基本ユニットとする。

- ・基本ユニットは古くから残る重たい建に抜きを作り、中間領域をつくる。
- ・蔵の伝統的で特徴的な構造体を残し、950mmモジュールを採用する。
- ・蔵同様、全柱を通し柱で構成し、天井高を大きくする。
- ・蔵同様、梁端方向に比べて桁行き方向を長くし、中に入るとスケール感を感じやすい。



□船着場



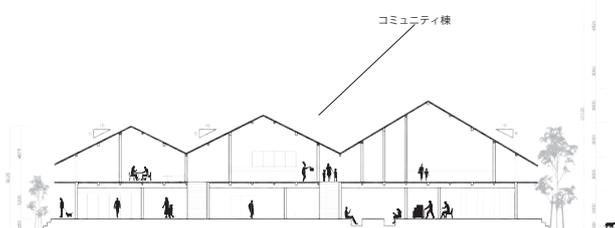
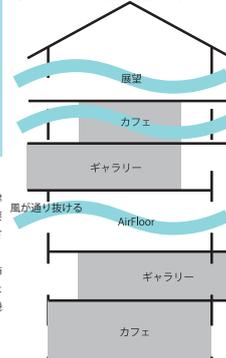
□コミュニティ棟



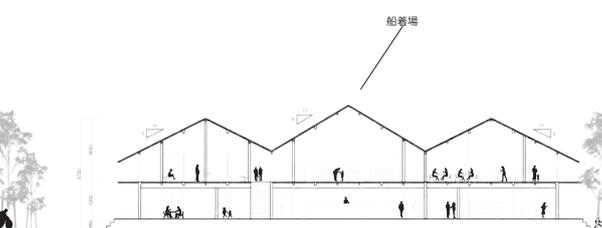
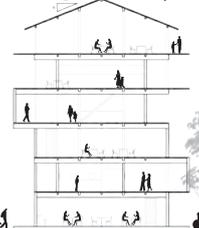
船着場や展望塔ではなく、宮津の日常を知る為、生活に必要な機能を一つの建物内で滞在させたコミュニティ棟を計画する。多様な人が多様な目的で訪れ滞り、みちを歩いて訪れたひとが建物内も歩きたくなる機能を持たせた。

□展望塔

展望塔は展望・ギャラリー・カフェの3つの機能を持たせた。機能を巡りながら塔を登り、塔を登りながら変わっていく景観を楽しむ、そんなこの場所にしか出来ない経験を提供する。



断面図 S=1/125



海から船着場を見る



天橋立から建物を見る



船の上から建物を見る



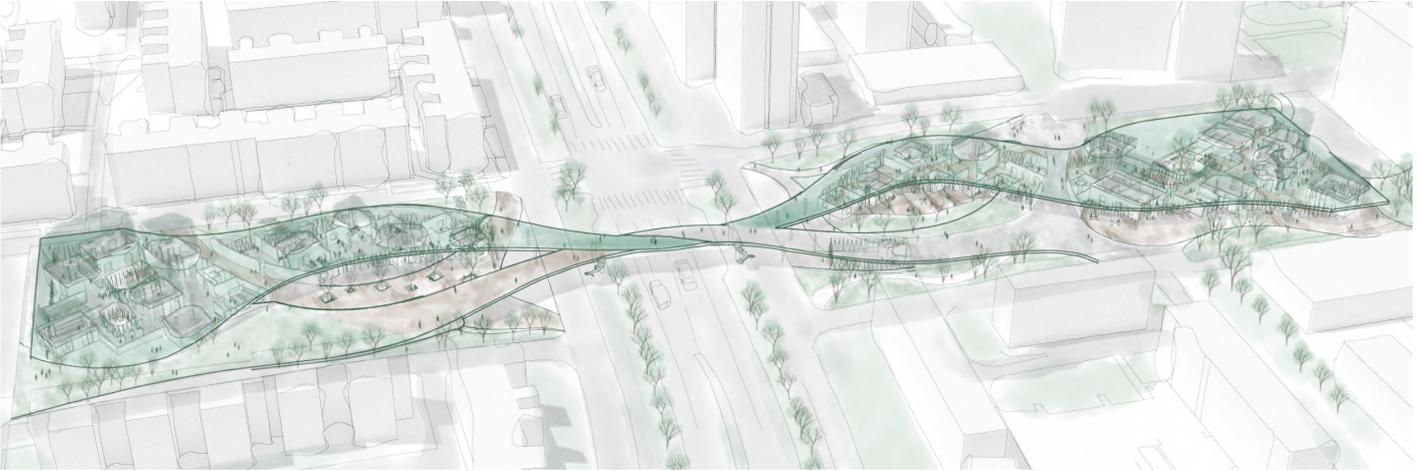
船の上から建物を見る

日本建築家協会 近畿支部「学生卒業設計コンクール」学科代表作品



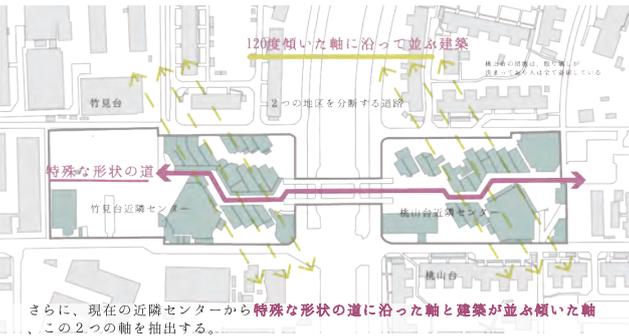
卒業設計
編む ～地域を繋ぐ架け橋～
井上 舞香

“近隣との関係を断ち、隣の住民すら知らない”この現状に疑問を抱く。“近隣の人々と挨拶をかわし、かかわり合いを持つ”そんな日常が豊かさではないかと私は考える。千里ニュータウンの中心に残る2つの近隣センター。街の中心地であるこれらの場所に消えゆく街の姿を映し出し、継承していく。豊かな街とはどんな街であるか、千里ニュータウンという街の在り方について考える。



01-2. 敷地調査 —継承していく形—

敷地は、大阪府吹田市千里ニュータウンに位置する桃山台と竹見台の両近隣センター。千里ニュータウンという土地は、シンプルな形状の建物が規則的に並んでいるが凸凹とした土地の地形が街の情景に面白さを引き出している。そんな特徴的な地形を継承すると共に土地に沿った新たなリズムを加えていく。



02 繋がりを生むきっかけとなる場所

現在の千里ニュータウンは、多世代が集まる街であるが、それらほど孤立しているように感じる。そんなこの土地の中心に近隣住民が交流するためのきっかけとなる近隣センターを提案する。

02-1. 編みこみ通り

1 軸の継承

現近隣センターの建物が並ぶ軸を取り込み、軸に沿ってボリュームを配置する。

2 空間を生む

軸に沿ったボリュームをランダムに配置することにより隙間空間が生まれる。

3 編みこむ

ボリュームの間に内空間を作り、この内空間に人が流れ込むことで通りが編みこまれる。

02-2. 編み橋

1 軸の継承

現近隣センター真ん中を通るジグザグに通る道を引用して橋の形状を決定する。さらに敷地の周辺に広がる4つのエリアを編みこむように橋を渡し、道路上の橋で交わり合う形状とする。

2 編み橋立体化

決定した橋の形に立体的なリズムを持たせる。橋にリズムができることで2つの地域を立体的にループすることができる。

3 穴を空ける

立体化した橋に穴を空け、橋下にある1階の商店エリアに採光を取り入れる。また、穴から橋の上と1階を緩やかに繋げる。





卒業設計 ひと繋ぎの山道 失われた緑地を地域へと開く 桂 瑛

これまで都会から外れるケースが多かった介護施設を都会の真ん中に自然と共に設計することにより、人々が自然と交流できる空間にする。また林業や農業が盛んな敷地ならではの交流が生まれるよう、特産物などを積極的に取り入れ、自分の街の良さを皆で再確認できる建築としていく。後の時代にも用途を転じていける、これからの介護施設のあり方の一案としてこの卒業設計で示していく。



研究の始まり

四年ほど前から父と共に祖母の面倒を見るようになった私たち二人の生活はこれまでの生活に比べてガラッと変化した。ある日頃に突然祖母が認知症になったのである。

今まで調理や掃除などすべての家事を普通にこなしていた祖母が少しボケたと思った矢先に突然何もできなくなった。あまりのことにさすがに驚きを隠せなかった。現在住んでいる一軒家は一階が祖母の家、二階三階が僕たちの家という構成になっている。体の不自由はあまりない祖母は一日に二十回以上二階や三階まで上がってきても同じ質問を繰り返す。わがままもよくゆうようになり、まるで子どものような知能まで落ちてきているようにも思える。最近では普通に会話することが難しく、話が筋が通っておらず何を話しているかわからない。

日々夕刻、どんどんと歳せ、ボケが悪化していく祖母の姿を見ながらの生活はストレスに感じることが多

かった。介護の経験なく、父も僕もなかったことから、色々の壁にぶち当たりながら毎日を送っていた。

介護施設に入れるか考えるときもあり、今では週三回デイサービスに行ってもらっているが、常に家にいる人間がいないため家族にかかる負担は大きい。そんな日常から介護について考える時間が増え、現在の日本の介護施設について少し興味をもち、その中で介護の過酷さを知り、この卒業設計のテーマに至った。

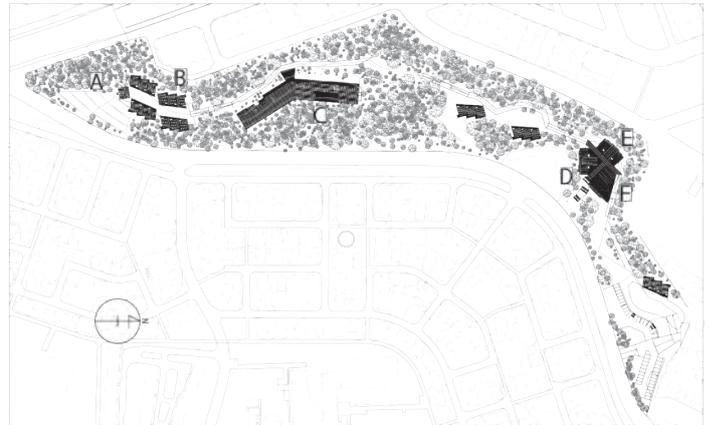
高齢者や、障がい者は介護施設自体が都会から外れているケースが多いため、施設に入ると人との交流が非常に少なくなる。そこで介護施設を都会に持って来ることにより、利用者の家族が施設に通いやすくなり、一般の地域住民との交流の機会も自然と増える。しかし、今自分が祖母の面倒を見ている中でストレスを感じているように、一般の市民と介護施設利用者の間には関わりすぎるとお互いがストレスに感じ

てしまうのも事実である。そこで交流の場とお互いのプライベートの空間がしっかりと保たれ、点在する施設を設計しバランスを保つ。



2022/09/10
瀬戸内海
フェリーにて

メイン棟・配置図 1/7000



この広大な敷地に対して、介護施設を考えるにあたって、一つコアとなるような建物が必要だと感じた。上図の建築物は、職員室、食堂、カフェ、ギャラリー、店舗、利用者の個室、多目的室、会議室で構成されており、建築範囲の等高線に沿った形状となっている。施設利用者がこの山の敷地と木造の気持ちよさでリラックスできるよう、構造は木造にした。よって 2730 のグリッドで建物は構成されており、そのグリッドに従って部屋も配置している。また、構造を木造にすることにより、もともとこの敷地に生えていた木材を使用できる。林業が盛んであるこの地域でこれをする事により、介護施設だけでなく林業も都会へ持っていくことができる。また、地元の木材を使用することにより、地元住民がこの施設を利用するに当たって、良いきっかけとなり、また親近感も湧く。

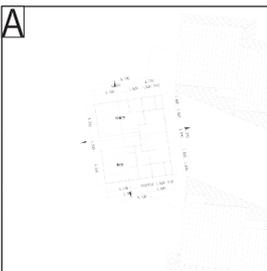
構造を木造にすることによって間接的にこの敷地に残る自然を感じられるように計画したが、それだけではなく、建物内においても直接自然を感じることをできるように、建物内に外部の吹き抜けを等間隔でつくり、ガラス張りして覆った。その外部の吹き抜けにはもともとこの場所に生えている木々をそのまま層根まで突き抜けるように残し、建物内から見えるようにする。

吹き抜けをガラス張りして覆っているため、木々の隙間から漏れた日光が建物内へと射し込む。これらは施設内に散らばる、図書・学習スペース、カフェ、ギャラリー・店舗間のスロープ、エレベーターホールから不特定多数の人が味わうことができる。介護施設利用者が施設内においても自然の力でリラックスできるような設計となっている。

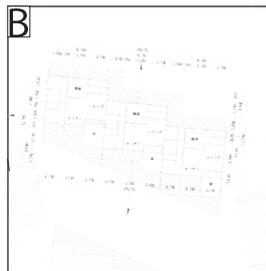


平面計画の際、二つの建物の交わる角度などを等高線に従いながらスタディを繰り返したが、断面計画にも山の地形を生かすことを考えた。北側の棟は基本的に一般市民が多く利用すると予想される。ギャラリー、店舗間は下の地形が唯一下がっている部分であったため、建物のレベルもスロープを用いて下げ、断面計画に変化を加えた。ギャラリー側のスロープの上部は吹き抜けとなっており、他の場所と変わった雰囲気を感じることができる。

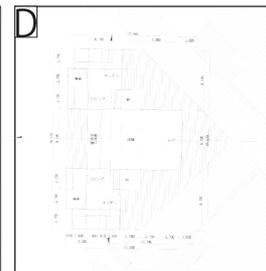
その他施設 1/1000



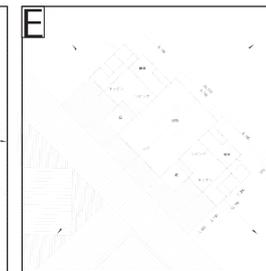
A棟は基本的に介護施設利用者と一般の地域住民が共同で使う施設になっている。中には誰もが利用できる図書室、介護施設利用者や地域の高齢者へ向けたデイサービスができるような教室がある。利用者のターゲットが違う物を中に入れることで交流が生まれる。教室はデイサービス以外にも地域の子供たちに向けた塾としても利用できる。各施設利用者がエントランスの休憩室で交流する



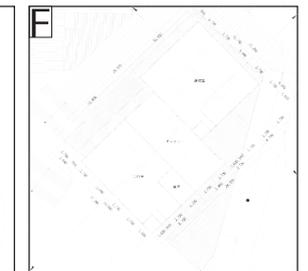
メインの建物であるC棟にある個室とは別に、敷地内にはコテージのような宿泊施設が点在する。このB棟は基本的に介護レベルの低い(常に近くに介護士がいなくても良い)介護施設利用者が利用する。このB棟は後に宿泊施設として二棟目を転じていけるよう、キッチンなどの水回りも完備している。敷地内には7棟点在し、各個室にはプライベートの庭がついている。



地元の特産物などを販売する店舗と介護施設利用者を利用する個室が複合した棟。個室にはB棟と同様にプライベートの庭が設置されており、少し外の雰囲気を感じたい時には庭の側面が利用できる。店舗の裏側には両サイドの個室のバルコニーが繋がっており、外部の吹き抜けもある敷地の自然を存分に楽しむことができる。またバルコニーを繋げることにより、大人数向けの宿泊施設へも利用可能になる。



D棟と同様に地元の特産物販売する店舗と介護施設利用者利用する個室の複合施設。一般の地域住民が利用する店舗と介護者が利用する個室の距離が近い。そのため、交流の距離も縮まり、施設前のデッキなどで会話が生まれる。D棟のように両サイドの個室は繋がっており、ここで利用する個室になっている。D棟も同様であるが、B棟の個室とは少し間取りが変わっている。



西側には調理室、東側には作業室がある棟。介護施設利用者が、リハビリやデイサービスなどで利用したり一般の地域住民も利用できる施設。時に両者が共同で使う事により交流の距離が縮まる。作業室の西側には作品を展示するギャラリーがあり、C棟内のギャラリーと同様に地域の学生の成果物なども展示することにより、地域住民と介護施設利用者、地域の学生などの距離が近くなる。



卒業設計
無意識への帰結 ～劇場型広場の身体化～
黒田 健太郎

建築空間において無意識的なものは利用者にとって最適な状態と考えられる。しかし、集いの広場には意図した広場機能とは異なる階段機能のみが無意識化し、劇場型広場という特徴的な形態を残した不自然な空間となっている。本研究では、集いの広場に混在する機能を区分けし、人の体に馴染むように身体化させることで、再び無意識へと帰結する広場の在り方を提案する。

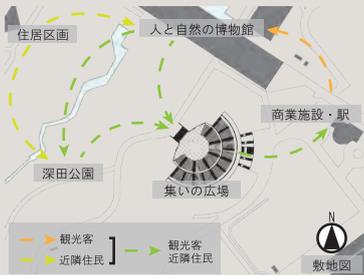


01 Concept
無意識への帰結

無意識化は最も合理的な人の仕組みであり、且つ建築空間に対しても無意識的なものは利用者にとって最適な状態と考えられる。兵庫県三田市に位置する集いの広場は竣工から30年が経過したことで無意識化は成されているが、実際には意図した広場機能とは異なる階段機能のみが無意識化し、劇場型広場という特徴的な形態を残した不自然な空間となっている。本研究では、集いの広場に混在する機能を区分けし、人の体に馴染むように身体化させることで、再び無意識へと帰結する広場の在り方を提案する。



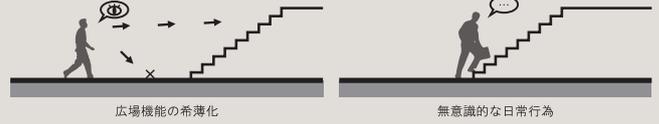
02 Site
集いの広場



敷地は兵庫県三田市に位置する集いの広場を選定した。敷地周辺には国内最大級の大きさを誇る人と自然の博物館や深田公園、商業施設等が隣接し、これらを囲うように団地や戸建て住宅が配置されているため、日常的に近隣住民や観光客による人の往来が見受けられる。裏を返せば、集いの広場は広場としての機能を求められておらず、単なる移動経路と化しており、人が自由に滞在し、憩う場所という日常的な広場の姿として不自然な状態となっている。

03 Problem
広場機能と階段機能の混在

人と自然の博物館や深田公園から駅や商業施設へ移動する際の動線上に集いの広場は位置するため、必然的に広場よりも階段として日常利用されてしまい、次第に人が滞在する広場としての機能は失い、形態だけを残した不自然な階段となった。また、広場機能の希薄化に伴い、階段機能という自宅や仕事の行き帰り等といった日常生活にありふれた行為がこの場所での主目的のようになったため、より無意識に集いの広場で立ち止まることなく、人々が通過するようになった。



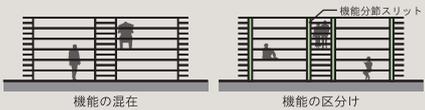
04 Define
広場の定義

集いの広場は劇場型広場という非日常的形態であるが故に、日常的な広場として利用しようとしても体が馴染まず、時間が経つにつれ人々の認識から離れていった。このことから、広場を日常的に用いる場合、広場機能というものは広大な土地や特徴的な形態を持つことよりも、人が容易に扱えるスケールであるべきだと考えられる。一人一人が扱えるスケールを小さくすることで与えられた広場空間を最大限活用することができるのではないだろうか。



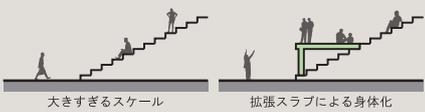
05 Plan1
機能の区分けによる広場機能の無意識化

集いの広場において、広場機能と階段機能の役割を果たす段差部分を区切るように機能分節スリットを挿入することで、明確に二つの機能を分離させる。機能分節スリットは、現在の集いの広場の在り方である階段機能は残しつつ、本来の無意識である広場機能の存在を明確にする。

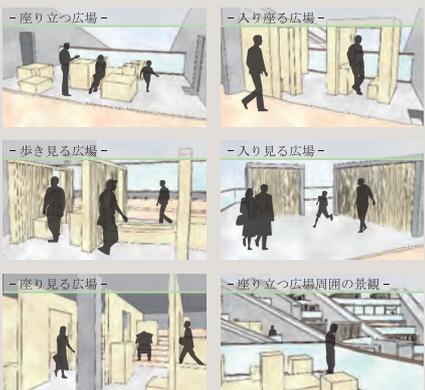


06 Plan2
広場の身体化を促すスラブの拡張

集いの広場は劇場型広場という形態上、人の体からは大きすぎるスケールであった。そこで段差部分の面積を拡張するようにスラブを追加することで、用途に限りがあった劇場型広場に広場として扱える場所を形成し、訪れた利用者が容易に扱える広場の身体化を実現する。



07 Perspective
広場での無意識的行為

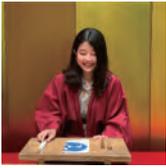


08 Drawing
1階平面図兼配置図



09 Drawing
A-A' 断面図





卒業設計
巡り廻る ～駅前広場の再編～
米田 朱里

年々、地域の繋がりは薄れていき、隣人の名前すら知らないという環境が増えてきている。また、駅前空間は地域の人が集まりやすい立地にも関わらず滞在せず通り過ぎてしまう事がほとんど。今回、本計画の課題点として地域コミュニティの希薄化と駅前空間の簡素化に着目した。地域の人々が気軽に集まることが出来る広場を駅前空間に提案する。



STUDY MODEL

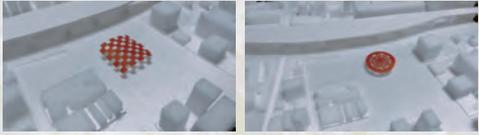
1 キャノピーの検討



キャノピーをウェーブ上にしたデザイン。屋根の高い所と低い所で空間を分けることもできる。



雪の結晶のようなデザイン。綺麗な幾何学模様なので見た目だけでなく影も楽しむことが出来る。



四角形の枠の中に市松模様をちりばめたデザイン。影の出てきた時も屋根同様美しい。

市松模様をイメージしたデザイン。市松模様は柄が途切れることなく続いていくため賑わいの意味が込められている。

きのこのような円錐型のデザイン。キャノピーの要素だけでなく町のシンボルとしての役割も担う。

45度回転させた四角形を縮尺を変えて連続させたデザイン。屋根の形状が綺麗な高下から見ても美しく見える。

2 検討したモデルから厳選



1.市松模様

外観だけでなく影の出方も魅力の一つ。
利用者が下から覗いたり駅のホームやビルなどの高い場所からの見え方も考慮。
しかし、屋根がフラットな為単純な印象を与える為、改修の余地がある。



2.ウェーブ

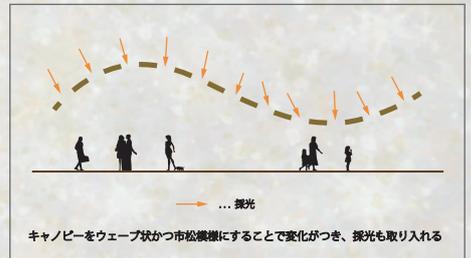
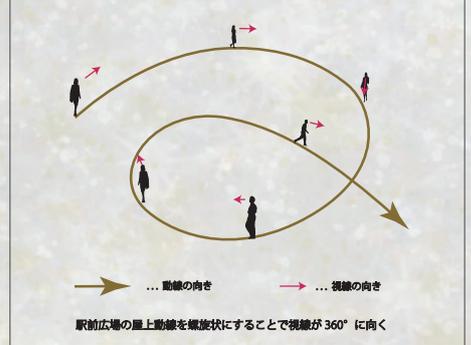
天井高さを変えることで空間に緩急をつける。
歩いているだけで天井高さがころころ変わるので楽しい空間を演出。
しかし、天井高が最高高さの所は光が入りやすいが、高さの低い所は光が入りにくく暗い印象が見受けられる為、改修の余地がある。



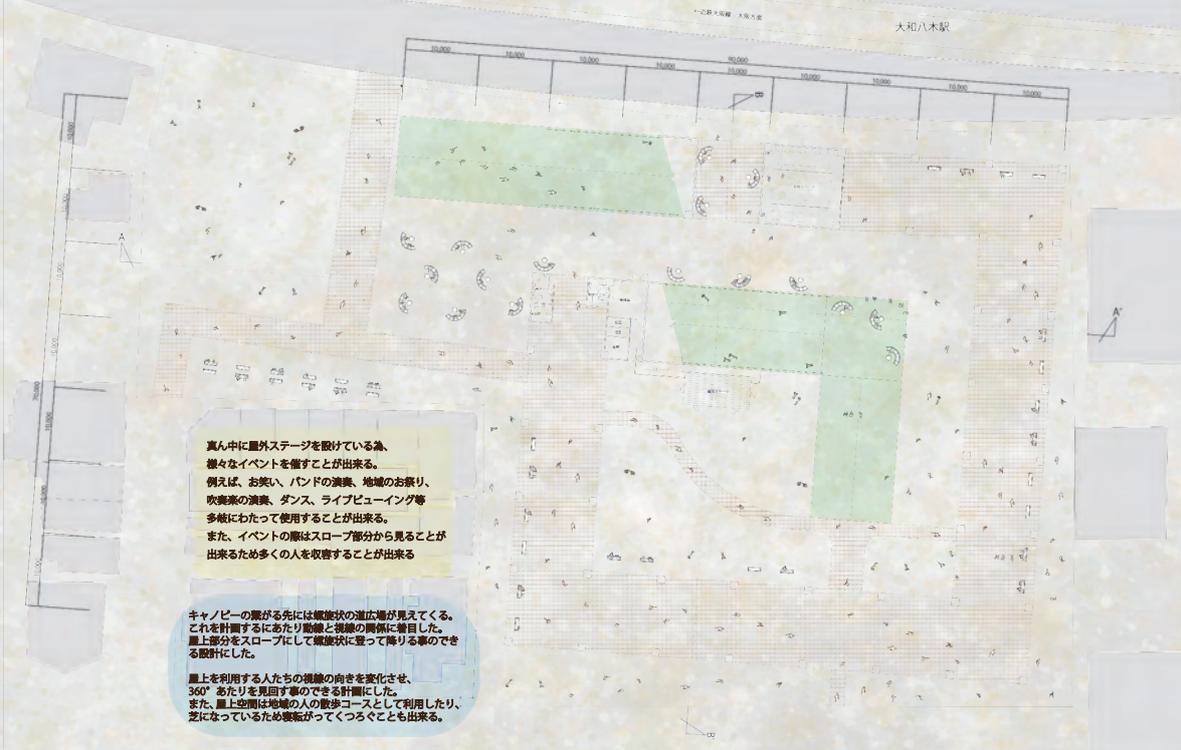
3.市松模様 × ウェーブ

各々の欠点を補いあうデザイン。
市松模様では単純な印象の改善が望まれていたが、ウェーブと組み合わせることで動きが出来、単純な印象を払拭。
ウェーブでは天井高の低い空間の採光の改善が望まれていたが、市松模様と組み合わせることで天井高さに関係なく光を取り入れることが可能。

DIAGRAM



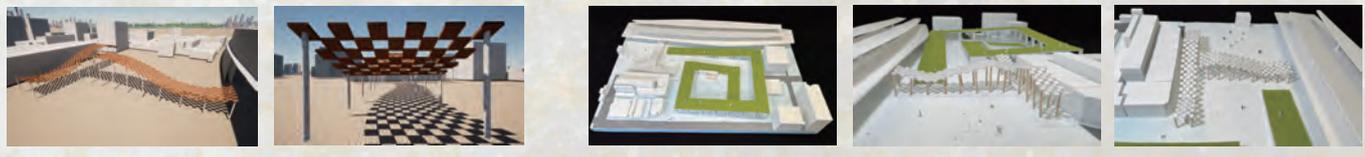
PLAN



真ん中に屋外ステージを設けている為、様々なイベントを開催することが出来る。
例えば、お笑い、バンドの演奏、地域のお祭り、吹奏楽の演奏、ダンス、ライブビューイング等多岐にわたって使用することが出来る。
また、イベントの際はスロープ部分から見ることが出来るため多くの人を収容することが出来る

キャノピーの繋がる先には螺旋状の道広場が見えてくる。これを計画するにあたり動線と視線の関係に着目した。屋上部分をスロープにして螺旋状に登って降りる事ができる設計にした。
屋上を利用する人たちの視線の向きを変化させ、360°あたりを見回す事ができる計画にした。また、屋上空間は地域の人々の散歩コースとして利用したり、芝になっているため緩衝がゆっくりくぐることが出来る。

道広場 1階平面図 S=1/1000





卒業設計 建築全体に想像力と遊びを 澤 紫月

現代社会で求められる自ら取り組む課題解決力を向上させるため、本研究では「ゲーム」を主題とし、建築空間の構成を提案する。ゲームに必要な考え方やオブジェクトを分析し、それをもとに様々な見方や考え方が不可欠となる脱出ゲームを取り入れ、この空間とオフィスや商業を組み合わせる。エスキース段階から3Dで計画するために、操作性が高いゲーム「マインクラフト」を利用する。



Concept

【ゲームの魅力分析】

【要素】	【用途】	【オブジェクト】
<ul style="list-style-type: none"> 前提: 競争・勝負, 離奇・交換, 仲間・家族, 偶然, 思い付き, プライバシー, 情報の欠片 翻弄: 伏線, 収集と反復 成長: 選択と裁量, フィードバック 物語: 難易度調整, NPC同行者, 解読の未解決, スタートに戻る 意志: 成長, 難易度調整, NPC同行者, 解読の未解決, スタートに戻る 	<ul style="list-style-type: none"> 脱出ゲーム 物語の世界 ゲームの世界 展示スペース アスレチック パワが練習室 シェアオフィス 個人スペース ロッカースペース 閲覧スペース カフェ 店舗 広場 休憩スペース 	<ul style="list-style-type: none"> モニター A 看板 B 動く壁 C 屋外 D 緑 E 廊下 F オブジェ G 視界の変化 H 吹抜け I 個室 J 階段 K 想定外の内装 L スロープ M ガラス N

【例】

① A,C,J,N (モニター、動く壁、個室、ガラス)→パワが練習室

② B,E,F,I,N (看板、緑、廊下、階段、吹抜け、ガラス)→レトロな倉庫

<外観の検討過程>

① 1窓のサイズ同じ

② 1窓のサイズ用途ごとに变化

③ ①の下を採用色の变化をつけ、外観からもエリアが分かるように

④ 単色テラス

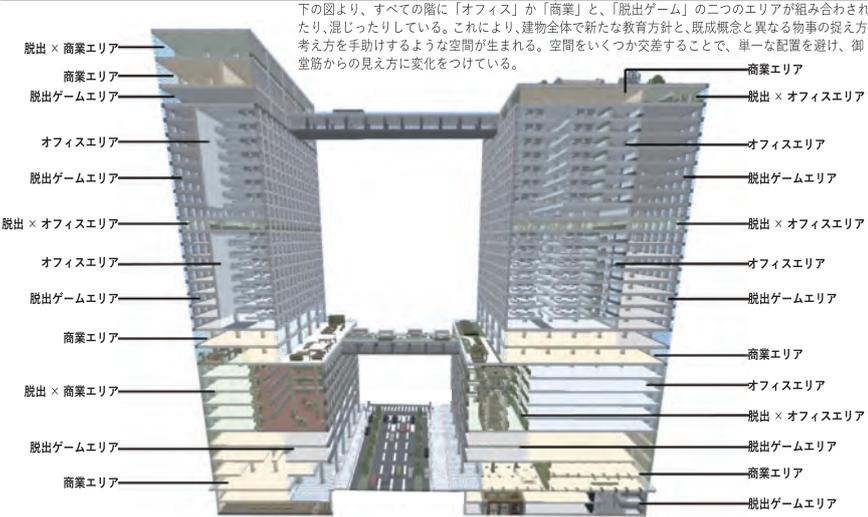
⑤ 一色を含めにし、緑を目立たせる

⑥ 一ブリッジ上にお店。道を直線にして視線を通す。

⑦ 一色を含めにし、緑を目立たせる

⑧ 一道を交互に、人の滞留場所を設置片側の圧迫感解消

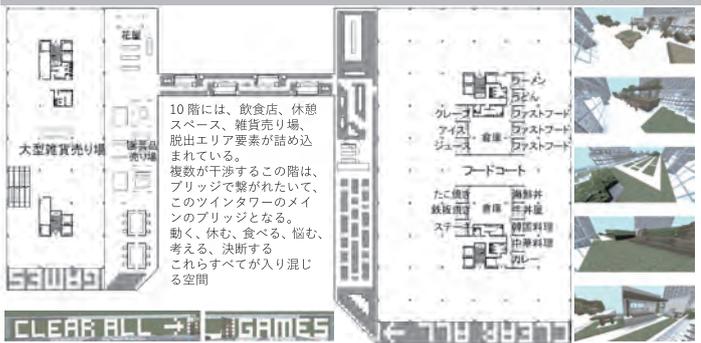
断面図 (御堂筋横断面方向)



脱出ゲームエリア



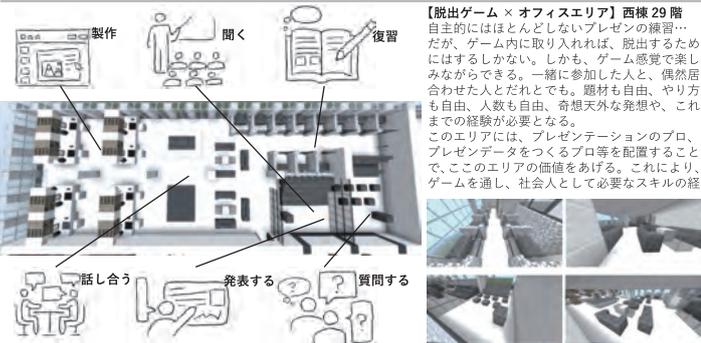
商業エリア



オフィスエリア



複合エリア





卒業設計

あきん廊 ～豊富な地域資源を発信する道の駅～
千崎 裕太

近年、さまざまな地域創生が注目されており建築的分野において「田舎」である地域の活性化を促進する例として「道の駅」が挙げられる。そこで地域資源が豊富に存在する高知県安芸市に、観光客だけではなく地域の人々にとっても憩いの場となる空間を計画する。山と川に挟まれた自然豊かな土地を活かした建築提案と人々の交流を盛んにする用途提案で活性化を促進する道の駅を誕生させる。



01 歴史と文化の香る自然豊かなまち高知県安芸市

□基本情報

人口：16,869（人）→39.6%が65歳以上
面積：317.21（km²）
人口密度：53.2（人 / km²）
世帯数：8,132（世帯）→多くが夫婦2人暮らし
岩崎彌太郎の出身地で、四国山地と太平洋に面した自然豊かな高知県の中核都市。



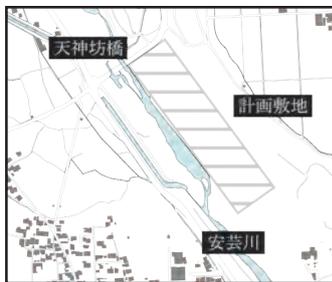
一太平洋を望む安芸市 一岩崎彌太郎像

□計画敷地情報

【所在地】高知県安芸市川北乙
計画敷地として選定した場所は、安芸川の中流にあたる場所である。山と川に挟まれた自然豊かな敷地であるが、現在は活用されておらずこの地に滞在空間を計画する。



現在の計画敷地の様子（現在：駐車場）



【図1】計画敷地周辺詳細地図

02 計画概要

計画施設のコンセプトは「ひととものが豊かなまちを創る道の駅」。有力な人材と豊かな地域資源がまちの活性化を導くために現在存在する地域資源を外部に発信し地域振興を目指す。また、山と川の間に位置する敷地の特性を活かし周囲の自然に溶け込む建築を計画する。

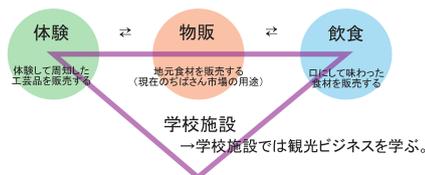
03 建物概要

主要用途 道の駅（一部学校施設）
構造種別 鉄骨造

04 全体計画（用途提案・建築的提案）

□機能（用途）

現在、安芸駅ちばさん市場が安芸市のファーマーズマーケットとしてJR安芸駅構内に併設されている。だが現状の市場は地域資源の魅力を発信し活性化を図る店舗とは言い難いため、以下の機能を追加する。

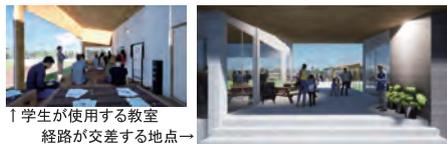
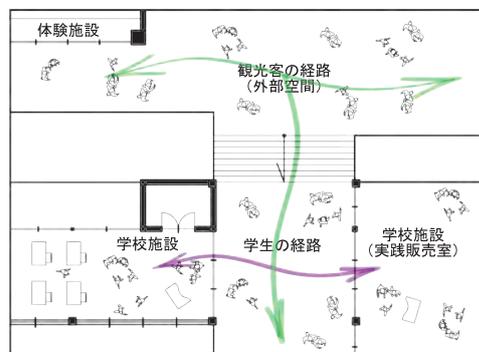


新たな安芸市の拠点新しい道の駅「あきん廊」の誕生

→体験施設と学校施設を機能に追加することで、物販・飲食を主とする本来の道の駅に+αの価値を与える。

□学校施設～安芸桜ヶ丘高等学校ビジネス科の存在～

安芸市には観光や商業について高校生が学ぶビジネス科が存在する安芸桜ヶ丘高校がある。本校では高知県内のさまざまな場所でイベント等にまちの名前を掲げ、地域資源を宣伝している。そんな安芸市の未来の宝ともいえる学生が、自分達のまちに存在する道の駅で訪れた人と直接交流を図ることで、観光や商業を学ぶことができる学校施設を計画する。（図2）が示すように、観光客の経路と学生の経路が交差することで両者の交流を生む。

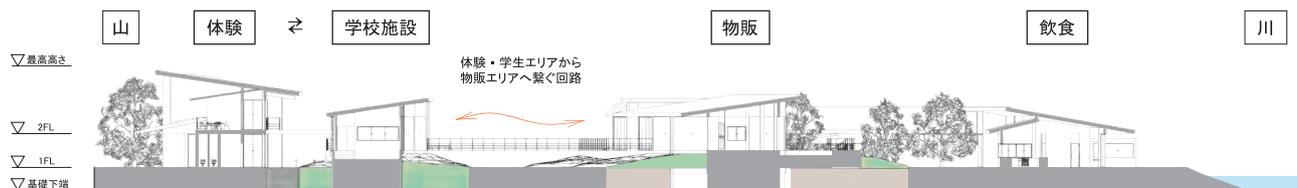
↑学生が使用する教室
経路が交差する地点→

【図2】学校施設外部空間詳細図面

→観光客の経路と学生の経路が交差することで両者の交流を生む。

□全体断面図

計画敷地は北側に山、南側に川、その遠く先には安芸のまちが広がる。計画敷地のポテンシャルを最大限に活かすべく、山から川に向かって建物の最高高さレベルを下げ、屋根勾配を山から川に向かって緩やかに計画する。山と川のレベル差を建築を通して和らげることで、山に溶け込む建築から川に溶け込む建築へと変化を見せる。



【図3】断面図 S=1/600

05 外観パース



①体験・学生エリア



②物販エリア



③飲食エリア I



④飲食エリア II

06 室内パース



①体験工房（体験・学生エリア）



②実践販売室（体験・学生エリア）



③直売所（物販エリア）



④農業食堂（飲食エリア I）

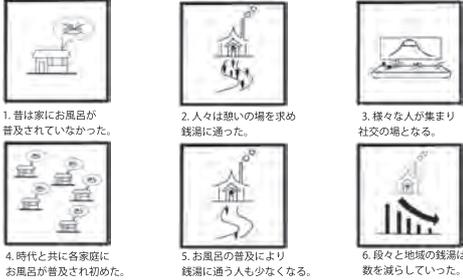


卒業設計
銭湯物語 ～民衆の小さな楽しみ～
高橋 晴大

かつて銭湯は地域の憩いの場や社交の場として民衆の小さな楽しみとなっていた。しかしそういった地域の銭湯はお風呂の普及により減少の一途をたどっている。そこで本計画では銭湯とワークスペースを併設した新たな温浴施設を提案し、かつての銭湯の風景を蘇らせ、地域の人の小さな楽しみとなる建築を生み出す。

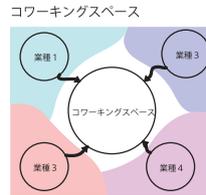
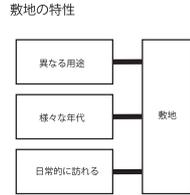


銭湯の推移

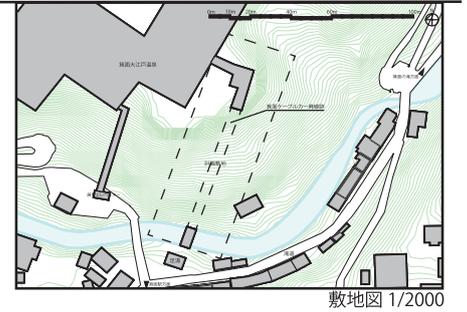


研究概要

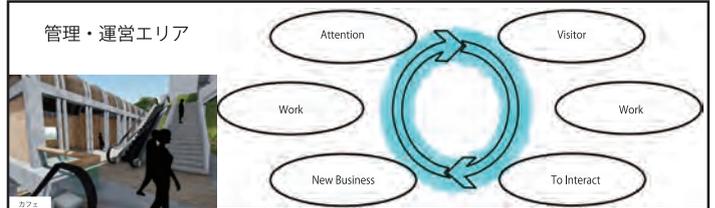
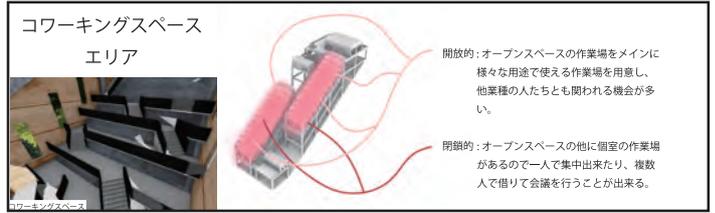
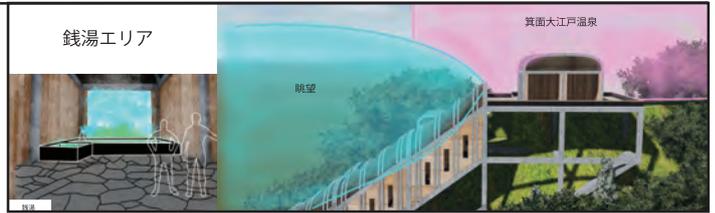
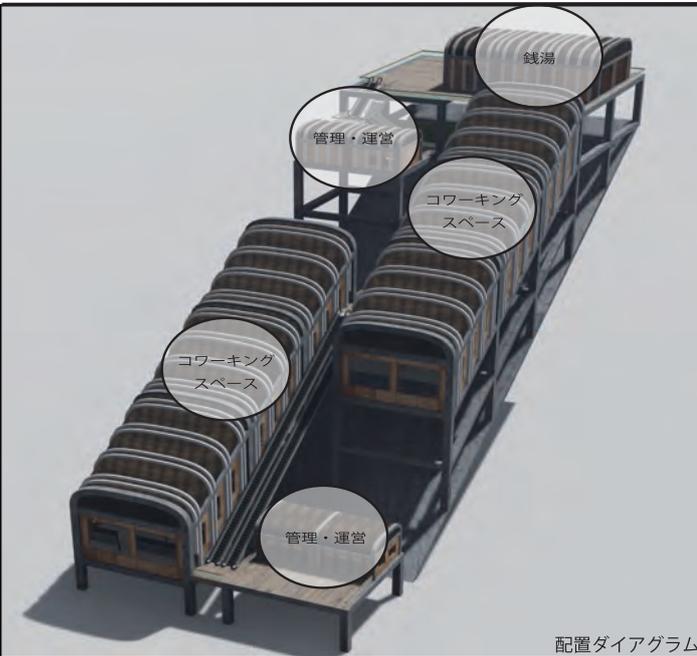
かつての銭湯には憩いの場と社交の場の役割があったと考える。そこで本計画では憩いの場としての役割を敷地の特性で、社交の場としての役割をワークスペースの空間で生み出す。



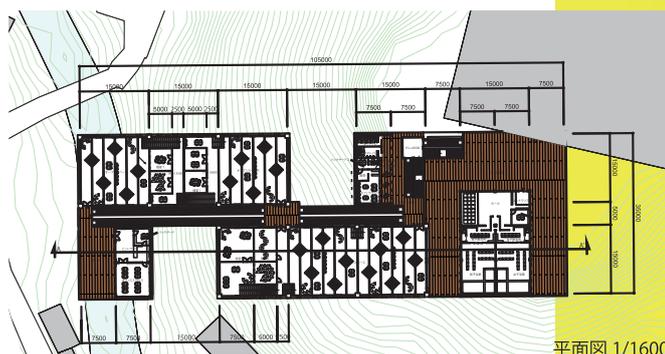
計画敷地



配置計画



計画概要





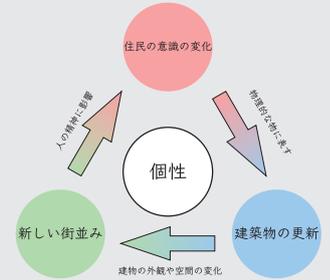
卒業設計 縦型商店街 ～公と私のグラデーション～ 中西 立龍

茨木心斎橋商店街は、昭和30年からなる茨木市最古の商店街だ。しかし、現在はシャッター街となり、一部マンションに立て替えられている。この地域資源を守るために、線の広場の商店街を平面的、立体的に変換する。住民の「私」と地域民の「公」をグラデーション的に配置し、多くの人が足を運びやすくするアビリティを取り入れることで、かつての賑わいを取り戻す。

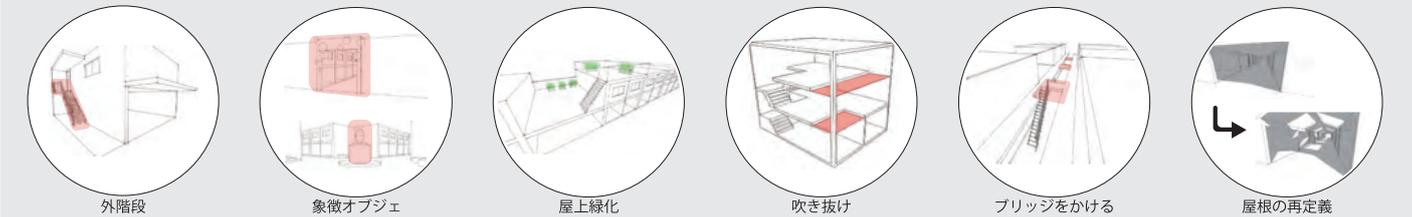


微差を増幅する仕組み

地域の個性とは、気候・地形などの自然的条件への対応を含む、その土地における人の営みの歴史が、空間的に重層することで形成されたものであることに気づく。過去に連なる優れた遺産の保存や継承は、地域性の形成につながる確実なアプローチである。しかし、もしそのような資源が潤沢でないとすれば、その地域の個性は何かと問うことは、未来にむけてそこに何を蓄積していくかという問いに重なってくる。現時点では個性と呼びえないささやかな特徴も、時間をかけた継承と蓄積を経て増幅され、目を見張る個性に育つことがある。



Diagram



 PERS.1 ブリッジから見下ろす景色 東西に別れる建物をつなぐブリッジからは、アーケード内を歩き交う人々を見ることができ、通路として住人やお客が使う際に商店街の賑わいを感じる	 PERS.2 個が集まるフリースペース 階段2階にあるフリースペース団体ではなく、個人や2〜3人の集まりで、周りと完全に遮断せず商店街の一部として設置する	 PERS.3 青空の見える屋根 従来のアーケードは日光が入らず昼間でも電灯が必要であり薄気味悪い雰囲気があった。そこで、天窓により青空の拝めるアーケードとなる	 PERS.4 吹き抜けの景色 小スペースと上階をつなぐ吹き抜け、住戸とフリースペースをつなぐ役割があり、公私をつなぐ
---	--	--	---



公私のグラデーションにするために



公私のグラデーションを描けるように、一階部分を商店である公共の多くの人々が利用・通過するものとし、上階になるにつれ地域民、住民にひたしみの深い場所としての計画をする。一階は従来の形の線的な商店街ではなく、横切るように通り道を作り、日常に触れる場面を増やす。2階部分には住戸を置くのではなく、フリースペースを作流ことで、住民だけで利用するのではなく、地域全体が利用する場を提案する。3階部分には、住戸だけでなく、住民用の屋上緑化と地域の象徴となる屋上緑化を作り、住民同士の私も取り入れる。北、中央、南の3棟が東西に別れて在している。吹き抜け、ブリッジ、屋上緑化にはそれぞれ意味を持たせることで、商店街をより一層地域に根付いたものに変換する。住民同士、住民と地域民の二種類の交流を持たせ、商店街を一階だけの平面的広場ではなく3次元的広場へと変換する。

 PERS.5 階段コミュニティ 中央の2階と3階をつなぐ階段はクロス形ニトリつけ幅が通常の階段より広くあり、階段での談笑がはずむ	 PERS.6 地域と住民の屋上 東側にある屋上緑化は住民と地域民で茨木市の屋上緑化を育て、商店街の象徴として立ち寄る理由を作る	 PERS.7 見えるけど行けない フリースペースとテラスは景色を共有できるが、会いに行くには少し商店街を歩かなければならないそうすることで、商店街の日常に触れる機会がふえる	 PERS.8 住民たちの屋上緑化 西側にある屋上緑化では、住戸側にあり住民たちが好きな花や植物を育てることができる
---	--	---	--



卒業設計
その場所で学び、経験する ～子どもの居場所と地域の共存～
 東 賢太郎

現代の子どもたちは騒音問題や危険性が擲論されたりなど、昔ほど公園で走り回ったり、遊具で楽しんでいる姿があまり見受けられなくなった。これは、大人が関与して子どもたちの居場所を作ってあげずに、子どもの可能性を狭めていると感じている。そこで遊び場だけを提案するのではなく、子どもと大人の交流の場を設けるため、地域の特産品に着目し、子どもの居場所と地域の共存を目指す。



提案の概要

①子どもの居場所を作る

現代の子どもが過ごさないような時間を過ごす体験をしてもらう。

②子どもだけが使う施設だけでなく、大人も利用できる施設に

子どもだけが使える施設だと、現状の様に大人が注意するのみで理解してもらえないため、大人も一緒になって利用できる施設をつくることで、大人と子どもが寄り添い、昔の外遊びを楽しんできた大人たち（地域住民）が理解し、遊んでいる子供に気を配るようになる。

③地域の特産品の活用による地元住民との交流

体験する機会が減ってきた子供たちが、農と関わるこの第二区間で、地元の特産品と触れ合えるような施設を提案し、教える大人、体験する子ども、それを見守る大人といった形が出来上がり、子どもたちと地域住民が交流を。



計画敷地 滋賀県草津市北山田町

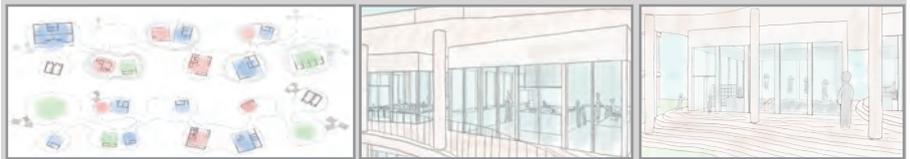


計画敷地は、滋賀県草津市北山田町にある草津川跡地公園部分である。北山田町では草津市産の野菜やコメなどの農産物「ベジクサ」を栽培しており、田畑が広がっている。さらに草津市では草津川跡地公園基本方針を定めており、今回の対象とするエリアが第二区間の農と関わり自然を学ぶ緑の創出がテーマではあるが、子どもが農と関わる機会がないため、この場所を対象敷地とし、子どもの居場所を作っていく。

建築的提案

①3つの空間で子供の居場所と地域の共存を

建物を分棟にし、できた箱に主に3つの機能を持たせる。①公園のような体験ができる空間、②地元の特産品を使った体験ができる空間、③どの年代も楽しむことができる空間（以下、①は赤のゾーン、②は緑のゾーン、③は青のゾーンと呼ぶ。）をつくる。この3つの機能をバラバラに配置していく。バラバラに配置するメリットとして、子どもが赤のゾーンで活動しているときに、緑のゾーンも一緒に興味を持ってもらいやすくするためや、青のゾーンで滞在している大人たちが子どもが体験や遊んでいる姿を見守りやすくなるためなど、子どもと大人が密接になりやすい配置計画を目指した。



②子どもと大人に寄り添う形状



周辺環境に合わせてつつ、差別化の意味を込めて建物一つの屋根で繋げ、柔らかい印象を与えるため屋根は楕円とし、建物自体は利便性や次の建物が見え隠れし、興味・関心を持ってもらうため、長方形とした。屋根を不規則な形にしたことで、絶妙な影ができ、自然と休憩スポットとなり、広場としての役割が期待できる。



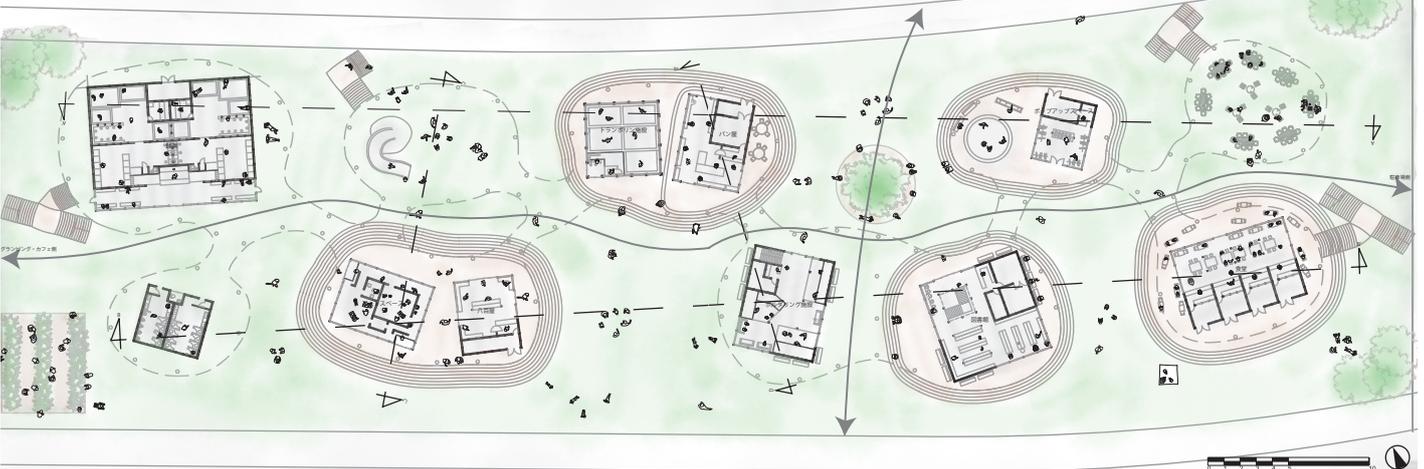
③見守る見守られる位置関係



下の棟の断面パースをみればわかりやすいが、カフェの先にある一階のアールスペースと八百屋、二階の料理教室と駄菓子屋がある棟が、屋外階段により、+1600上がっているため、カフェで休憩していれば上記パースのような自然な視線で上下階の建物を眺めることができる。お互いの棟が互いの向きにガラス張りになっているだけではなく、このようにレベル差をつけていることからできる自然な視線である。



1階平面図





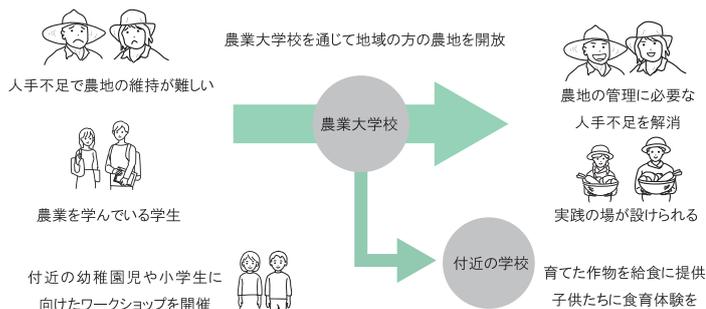
卒業設計 まちを描く建築 肥田 顕悟

地域によってそこに建つ建築は変わるはずである。では、地域性を持つ建築とは一体どのような建築だろうか。本研究では、そのまちに落ちているモノ、地域の地形など、そこに住む地域住民にとって生活の一部となっているモノを“普段目を向けられないモノ”とし、それらをヒントに建築をデザインし、真の地域性を有する建築の提案を試みる。



コンセプト

今回の計画では、高齢化による里山や農地の維持管理の人手不足を改善するため、地域の農家と関係を持つ農業大学校を計画する。“学び”と“自然の維持”を両立させるため、学びの場を校舎の中だけで完結させず、実践の場として、地域の農家の農地を設定する。農業を学んでいる学生は、実際に氷室地域の農地で農業を学ぶことができる一方で、人手不足が深刻化している農家では、人手の確保ができるため、氷室地域の自然環境の維持管理が可能となる。



配置計画

真の地域性を有する建築を実現させるため、氷室地区に存在する、“普段目を向けられないモノ”からヒントを得て設計を行った。計画敷地がある氷室地区は、大半が生駒山系に連なる山地のすそ野と穂谷川から形成される地域であり、起伏の激しい山や坂道が住民にとって生活の一部となっている。そのため、今回の配置計画では、山の斜面に逆らわず、山の一部となるように感じられ、地形と連続するように計画を行った。また、敷地北側には里山が広がっているため、敷地北側は自然を多く残し、建物は交通量の多い南側に配置。そのため、北側は周辺の里山や民家とゆるやかなつながりを持つ一方で、南側は交通量の多い国道からも見える位置に配置しているため、農業に興味がある人だけでなく、氷室地域に住む人たちも広く受け入れることができる、氷室地域の新たな顔となる建築となる。

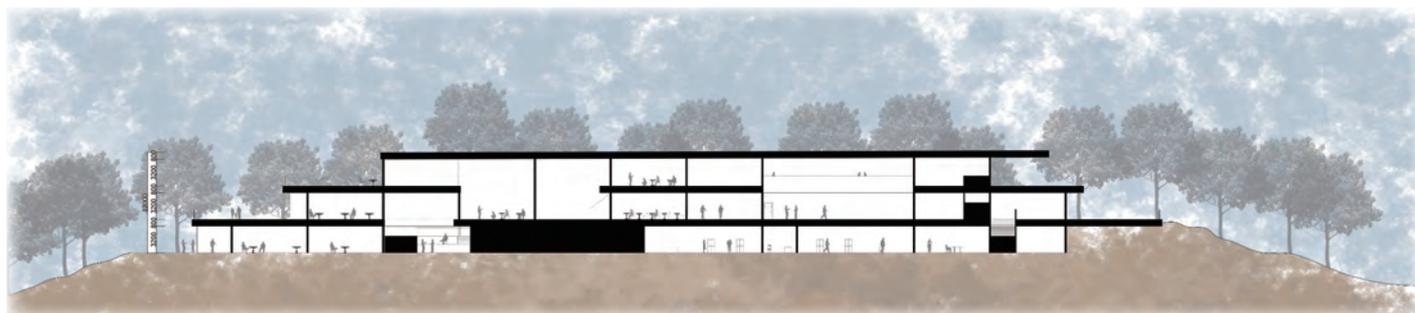
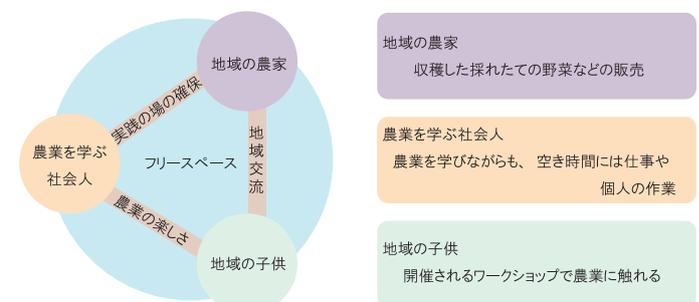
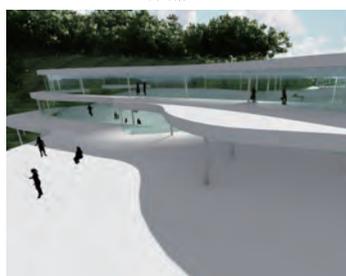


デザイン



今回計画する農業大学校では講義を受ける講義室など、学校を運営していくうえで必要な諸室を設けるのはもちろんのこと、講演会を開催できるホールと利用者が自由に利用できるフリースペースを広く設けた。講演会を開催できるホールでは、農業を中心に講演会を開催し、氷室地域の里山や農地などの自然環境に興味を持ってもらうことを目的に、利用者が自由に使用できるフリースペースでは、農業大学校で講義を受けて農業を学ぶだけで終わらせないように、学生と氷室地域の農家の交流を目的としている。また氷室地域で採れた農作物を販売できるように加工室を設け、農業に関りのない氷室地域の方に向けたワークショップなども開催できるようにして、氷室地域の里山や農業などの自然に興味を失った人にも、興味を持ってもらうことを目指す。

山に馴染むように配置した3層のスラブからはさまざまな曲線が生まれ、光を多く取り入れる。流動的に変化する曲線は、空間をあいまいに包み込む。その空間はそこで発生する活動によって、形や用途が変化する。地形に沿う3層のスラブは緩やかなカーブを持ち、中と外、建築と自然が混ざりあった空間を生む。



日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」学科代表作品
 日本建築学会 近畿支部「学生卒業設計コンクール」学科代表作品

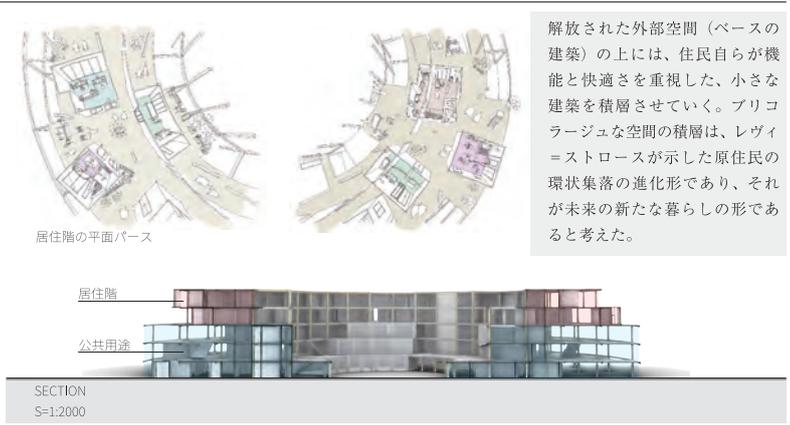
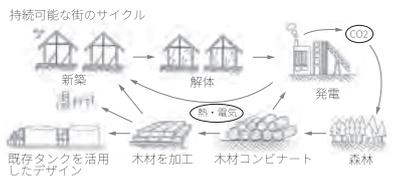
卒業設計
CIRCULAR CITY ~木で創る近未来の暮らし~
 望月 誠太

森林王国日本において今一度、建築素材、エネルギー素材として木材に注目してみよう。和歌山県有田市にある石油精製工場「ENEOS 和歌山製油所」は2023年10月をもって機能停止することが発表された。それにより、街の雇用や跡地活用など大きな問題を抱えている。この課題に対し、循環型社会に向けた取り組みとともに、既存タンクを活用した複合型集合住宅を設計し、近未来の暮らしを提案する。



01. 設計趣旨 Concept

本研究では、全てをスクラップ&ビルドではなく、化石燃料や、鉄、コンクリートと共に発展を遂げた近代の歴史にリスペクトを込め、巨大な鉄製の石油タンクを躯体として利活用し、木材と組み合わせることで時代の移り変わりを残した新しい提案をしたい。また、本設計が目指すものは、素晴らしい住環境整備を人が集まるインセンティブとし、企業の人材確保に繋げる狙いもある。合わせて、カーボンニュートラル社会の実現もテーマのひとつとする。





卒業設計 鶴橋商店街の再興計画 一商店街の新たなかたちー 山本 修

計画敷地である鶴橋商店街は戦後の闇市をルーツとしており、非日常的で混沌とした風景に足を運びたくなる人も多く、その場所性のようなものがここで店舗を営む人たちにとってのアイデンティティにもなっている。しかし、それと同時に老朽化と都市化の波が迫っている鶴橋商店街において、商店街の特別な場所性を踏襲しながら、今後も存続できるための新たな商店街のかたちを提案する。



1. 敷地

闇市として始まった鶴橋商店街だが、現在の多くの店舗は築50年が経過しており、今後存続するためには建て替えが必要である。また、近年駅前一等地という利便性の高さから商店街周辺では高層マンションなどが建設され、高度利用化が始まっているが、依然再開発が果たせていないのが現状である。



2. 提案

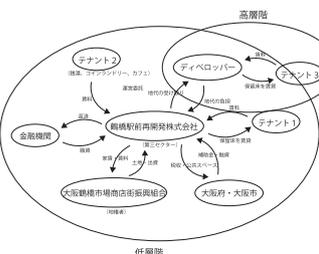
3.1 場所性の継承

闇市から発展したのが、この商店街で、戦後間もない頃に不法占拠的に店舗が並び、闇市が形成され、その後区画化されてきたのが現在の鶴橋商店街である。商店愛を散策すると至る所に闇市の面影を感じることができ、非日常的で混沌とした風景は足を運びたくなる人も多く、その特別な場所性がここで店舗を営む人にとってのアイデンティティにもなっている。そこで、敷地調査から「鶴橋らしさ」を持つ商店街を構成する言語を抽出し、鶴橋商店街の場所の質を継承する。



3.2 新たな商店街のかたち

大阪鶴橋市場商店街振興組と大阪府・市からなるまちづくり会社とディベロッパーとの新たな関係を作り出す。低層階の上にオフィスビルを計画することによってディベロッパーから新たな地代を受け取ることができる。



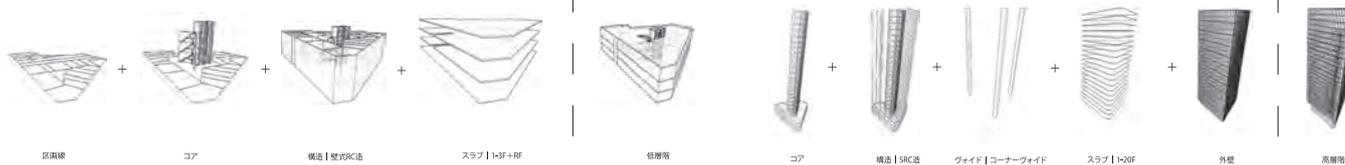
3.3 XX年後の商店街

本計画手法を用いて鶴橋商店街全体に適用する。屋上階を高架歩道で繋いでいくことで、人出が多い商店街とオフィスビルまでの動線を分けることができ、高度利用化に伴う通勤ラッシュなどの混雑時の問題も解消することができる。



3. 設計手法

設計の手がかりとして元々の区画線を利用して壁式鉄筋コンクリート造で区画線を立ち上げらせ、この区画線に従ってそれぞれの平面を計画する。



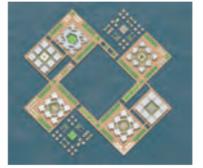
近代建築社編「卒業制作2023」掲載作品



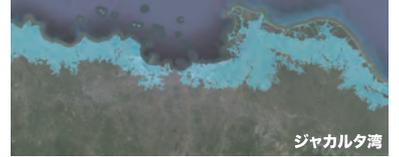
卒業設計

OCEANVILLE 水位レベル問題を解決する新しい居住地への強靱で多様なグリーン都市
ケアヌ アリヤ タノコ

本研究では世界に起きている水位レベルの上昇という環境問題をきっかけとして水位レベルに関係なく、住み続く可能な建築として水上都市のモデルを提案する。水上都市ではただの人間の新しい居住地ではなく、人間同士の関係を深くし、地域の新しい雇用機会を作り、グリーンでサステナブルな都市を作るといった社会や環境問題を解決できることが目標である。



1. 研究背景

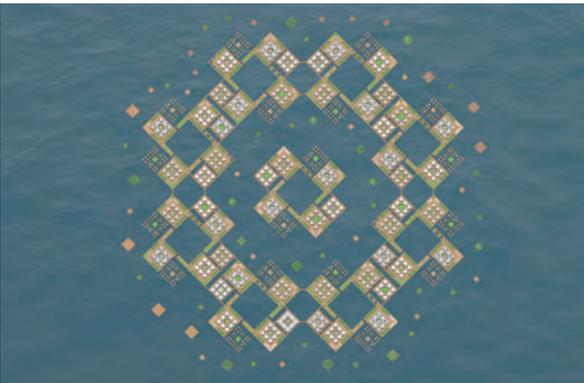


ジャカルタと大阪の2050年の水位レベル予測

地球温暖化等の環境問題の影響で我々の住んでいる地球は2050年に水位レベルが上昇することにより沈む恐れがある。そのため、住み続けるためには、水位レベルに関係なく、水上都市という人間の新たな居住地は一つの解決案になる。

本研究では水上都市という水の上に浮かんでいる都市を設計して、環境問題を解決しながら人間の新しい住む場所を提案する。

2. 都市モデル



3. 自然資源



4. 交通機関



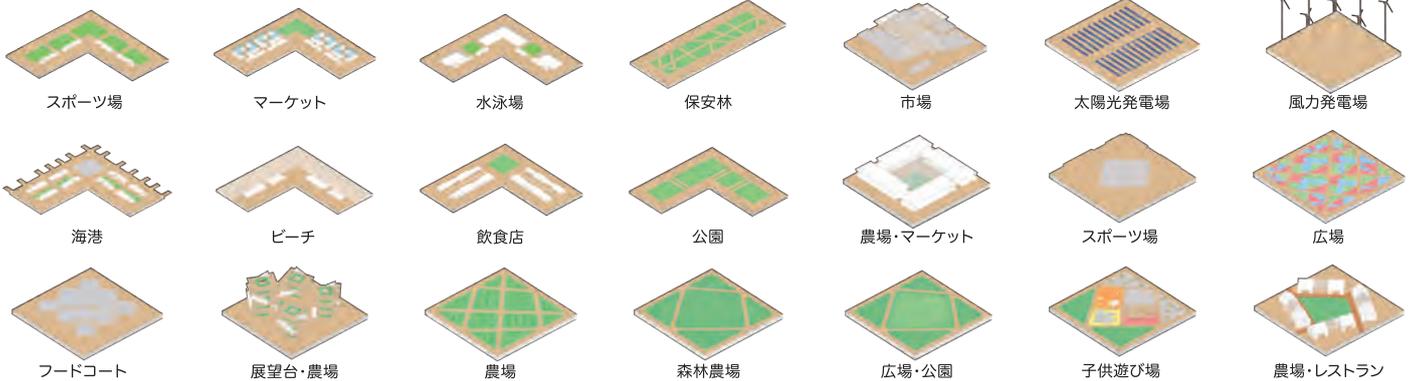
5. 道路計画



道路の計画としては利用者により3つの道路に分けていることで安全な道路や都市のオープンスペースを作ることが出来る。



6. 公共エリア



7. 建物の計画

用途 商業施設・オフィス・住宅
階数 8~13F

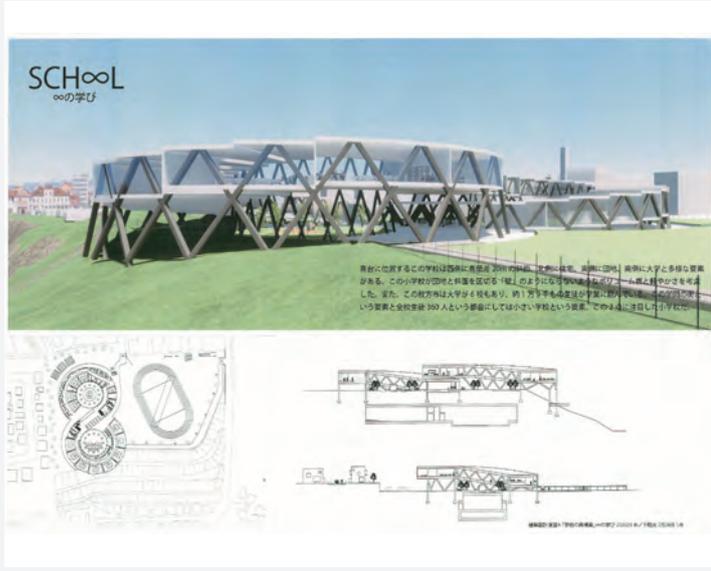
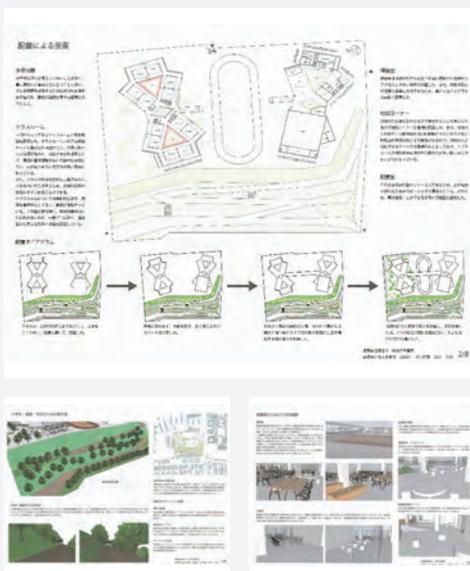




「つながる小学校」 猪股 溪登



「居場所となる小学校」 大江 航輝

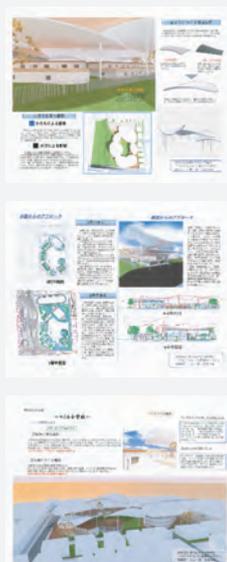


「∞の学び」 木ノ下 翔太

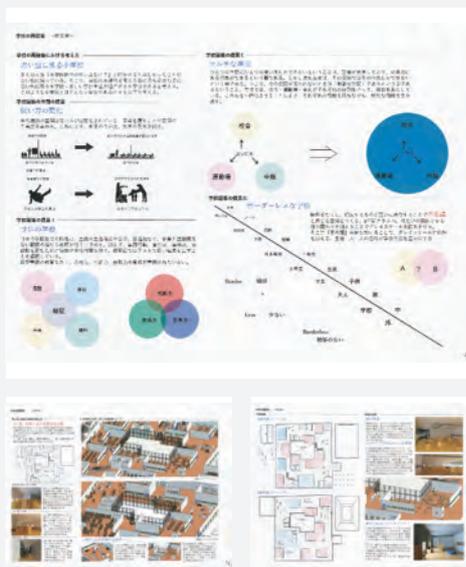




「つながる花びら屋根の小学校」 小西 一颯



「～提案書～」 野中 悠太



「街を作る学校」 宮添 燎海



建築設計演習 A 後半課題：小学校の設計

前半課題にてグループごとに示した学校像を実現する学校を個人で計画する。敷地は枚方市の高台に位置し、20m以上の高低差を有する。生徒数は一学年あたり60名程度を想定し、特別教室型とする。その他（例えば、クラス数や階数）は自身で設定する。分析から導き出したイメージを建築（実態）として提案する。

集まる小学校

少子高齢化が進み、地味な門前通りを挟んであるこの場所に立地する小学校は、何となく、それを支えたいと、子供も大人も一緒に「集まる」ことでこの街の活性化に貢献できると考え、そんな小学校を提案する。

1-1. 地域の風土を活かした建築
 地域の風土に合わせた小学校であるためには、その地域の風土や歴史をしっかりと捉え、それを活かす必要がある。そのためには、地域の歴史や文化をしっかりと捉え、それを活かす必要がある。そのためには、地域の歴史や文化をしっかりと捉え、それを活かす必要がある。

1-2. 多機能性を活かす空間
 子供と大人、それぞれが楽しめる空間を創出する。子供と大人、それぞれが楽しめる空間を創出する。子供と大人、それぞれが楽しめる空間を創出する。

1-3. 地域の風土を活かした建築
 地域の風土に合わせた小学校であるためには、その地域の風土や歴史をしっかりと捉え、それを活かす必要がある。そのためには、地域の歴史や文化をしっかりと捉え、それを活かす必要がある。

1-4. 学校イベントを充実させる空間
 小学校は、授業以外の大人と子供の交流の場である。そのためには、地域の歴史や文化をしっかりと捉え、それを活かす必要がある。そのためには、地域の歴史や文化をしっかりと捉え、それを活かす必要がある。

2. 敷地分析

敷地は南北方向に長い形状。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。

3. 敷地分析
 敷地は南北方向に長い形状。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。

配管図の提案

2-1. 敷地分析
 敷地は南北方向に長い形状。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。

2-2. 敷地分析
 敷地は南北方向に長い形状。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。

2-3. 敷地分析
 敷地は南北方向に長い形状。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。

建築設計演習 A 『学校の再発見』 title: 集まる小学校 No.202946 Name: 林 さくら date: 7/28 1/8

「集まる小学校」 林 さくら

まちのテラス

従来の学校は授業や集会、学習活動のみが行われる場である。そのほかにも、地域の活性化や、まちの活性化に貢献できる。そのためには、地域の歴史や文化をしっかりと捉え、それを活かす必要がある。そのためには、地域の歴史や文化をしっかりと捉え、それを活かす必要がある。

コンセプト
 フライアット セミパブリック パブリック

フライアットとパブリックの連携
 フライアットとパブリックの連携。フライアットとパブリックの連携。フライアットとパブリックの連携。フライアットとパブリックの連携。フライアットとパブリックの連携。

敷地は南北方向に長い形状。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。敷地には、自然豊かな環境があり、自然豊かな環境がある。

コンセプト
 フライアット セミパブリック パブリック

まちのテラス
 まちのテラス。まちのテラス。まちのテラス。まちのテラス。まちのテラス。まちのテラス。まちのテラス。まちのテラス。まちのテラス。まちのテラス。

建築設計演習 A 『学校の再発見』 title: まちのテラス No.202947 Name: 鞠山 もも date: 7/28 1/8

「まちのテラス」 鞠山 もも

建築設計演習B 第四課題：地域の拠点となる建築

スタジオテーマに沿った建築を考える上で適切と思われる街を対象にリサーチし敷地を選定。リサーチした結果をもとにその場所に必要と思われるプログラムを考え建築を設計する。卒業設計の前哨戦とも言える3年生最後の課題。

魚谷スタジオ：「介護福祉」

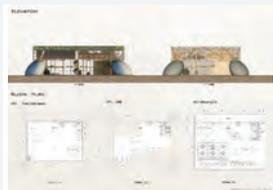


「Re:ぶどうの街」 木ノ下 翔太

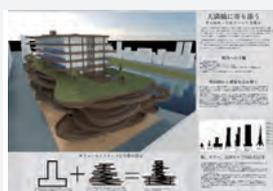
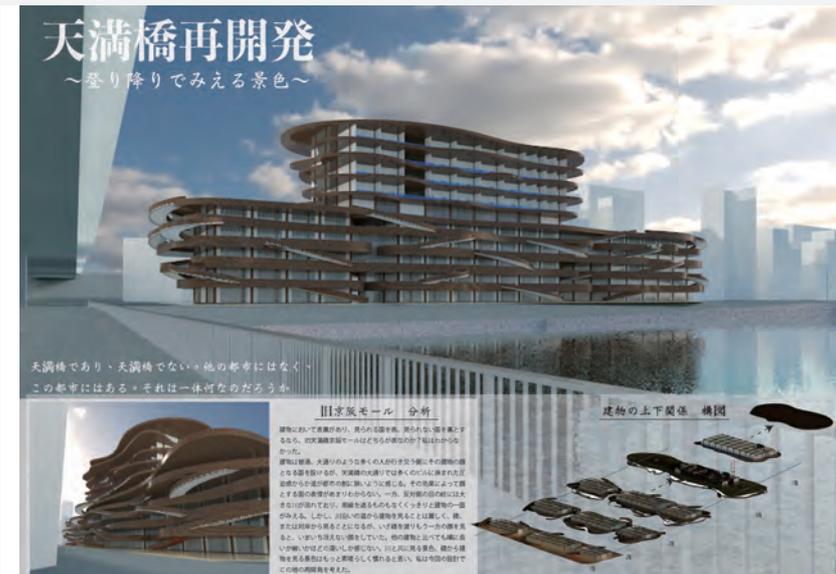


「通り抜けて交流を生む拠点」 奈須 智希

小野スタジオ: 「シンボル性」



「NAKAMOZU Redevelopment Project」 大森 慧斗



「天満橋再開発 ～登り降りで見える景色～」 小西 一颯

岸下スタジオ: 「文化・芸術」



「流 ~町を育てる拠点~」 大江 航輝

武田スタジオ: 「商圈」

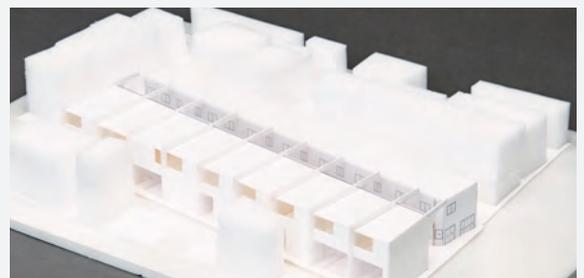


「渡る街並み 歩道兼アーケードによる商店街と地域の再興計画」 田村 優澄



「よりみちショップ」 森 華菜

水上スタジオ: 「公共 (行政)」



「HINODE Arcade ーシャッター街化した商店街の新しいカタチー」 多田 紋都



「Toyonaka Mobility Suburbanism」 堀 翔音



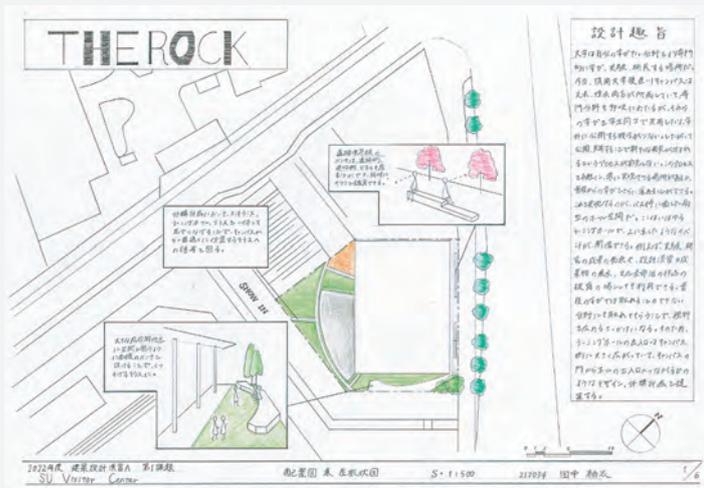
「川辺の洞穴 - River Side Den -」 宮添 療海

建築設計製図A 第一課題：SU Visitor Center ～通り抜けできるキャンパス～

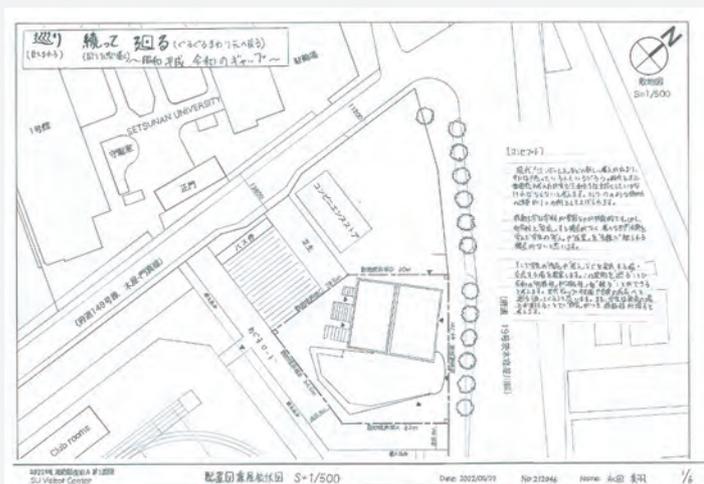
摂南大学は寝屋川キャンパス拡張に伴いCampus Open計画を進めている。本課題では、その一環として、バス停、店舗が隣接する敷地に地域に開かれた摂南大学ビジターセンターを計画し、学内関係者ならびに地域住民にとってコモンとなる施設と屋外広場を考える。



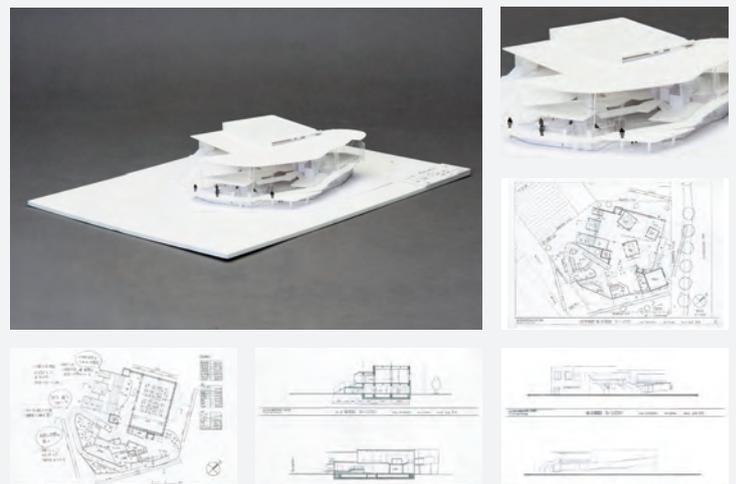
「地域にひろがる Visitor Center」 片山 美紗



「THE ROCK」 田中 柚衣

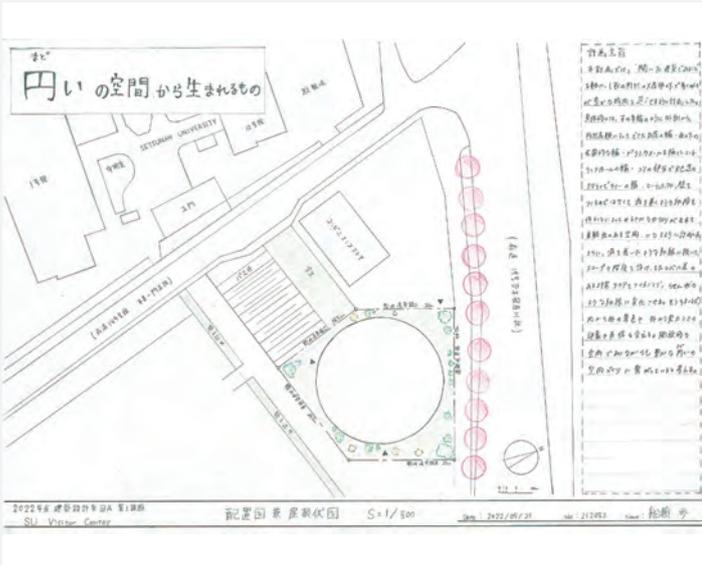
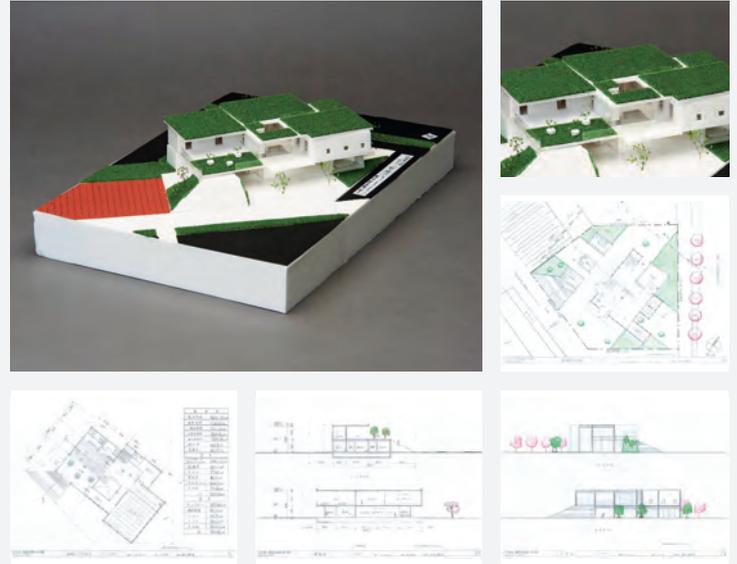


「巡り 繞って 廻る ～昭和、平成、令和のギャップ～ (見てまわる)(周りを取り巻く)(ぐるぐるまわり元へ戻る)」 永田 美羽





「回遊の間」 西出 侑里香



「円い空間から生まれるもの」 船瀬 歩



「散歩中の喋り場」 向 千里

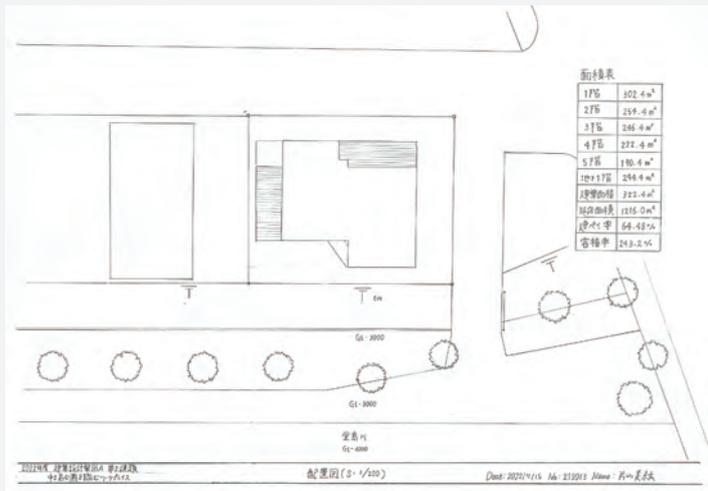


建築設計製図A 第二課題：中之島公園を臨むワークプレイス

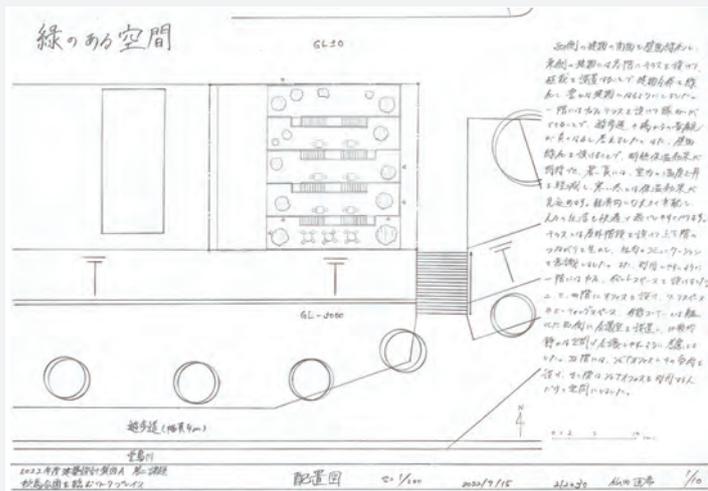
働き方改革やリモートワークが広がり、働く空間=ワークプレイスは、従来のオフィスとは違う新しい形が生まれている。コロナ禍を経験したいま、ワークプレイスには、オンライン/対面のコミュニケーションをとりながら、気持ちよく働く空間が求められている。本課題は大阪の都心を流れる大川沿いに、デザイン事務所のワークプレイスを計画する。



「階段で繋がるオフィスビル」 上島 葵

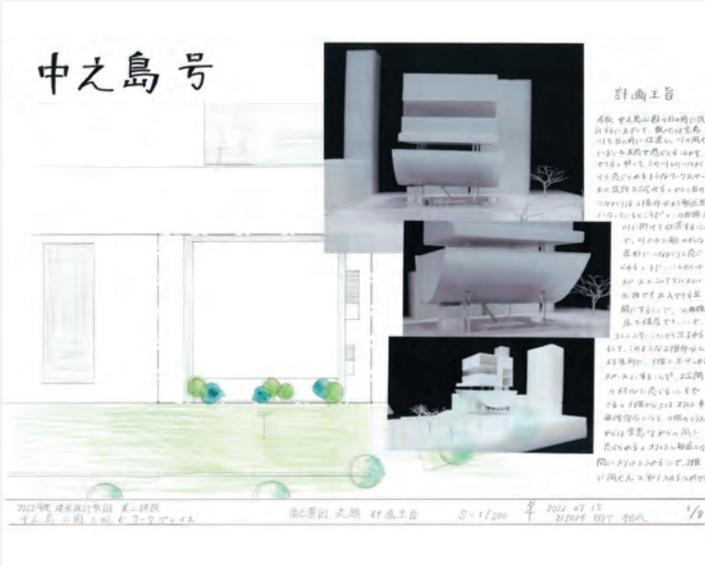


「溶け込むオフィス」 片山 美絢

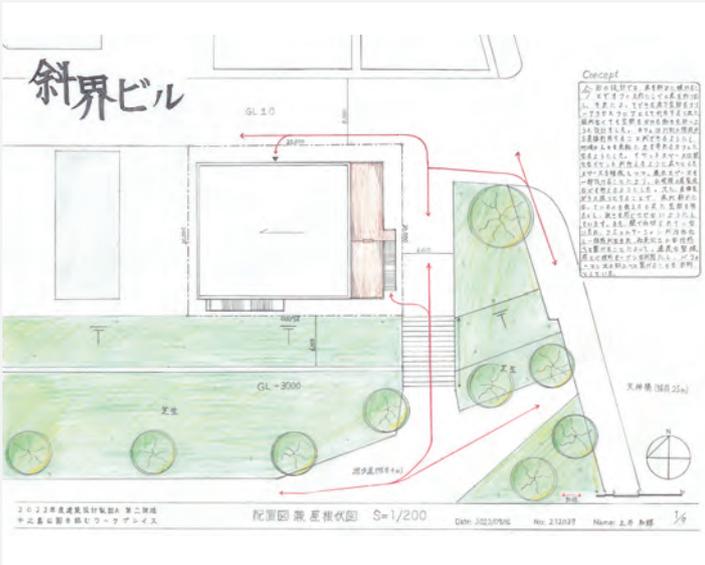


「緑のある空間」 仙田 直希





「中之島号」 田中 柚衣



「斜界ビル」 土谷 和輝

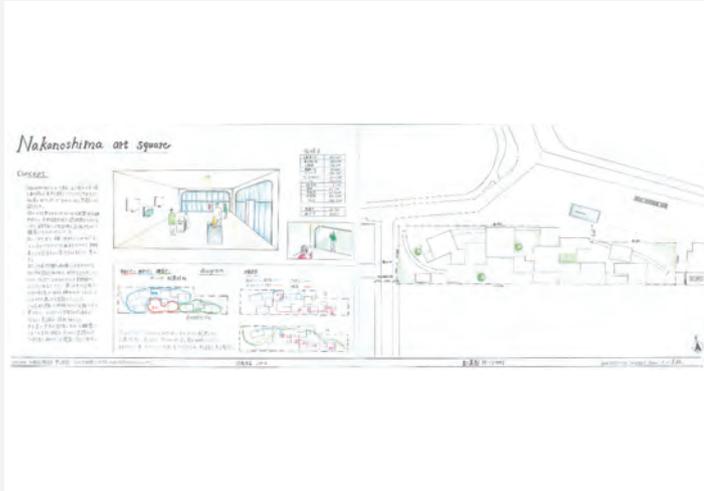


「繋ぐ」 出越 美紀

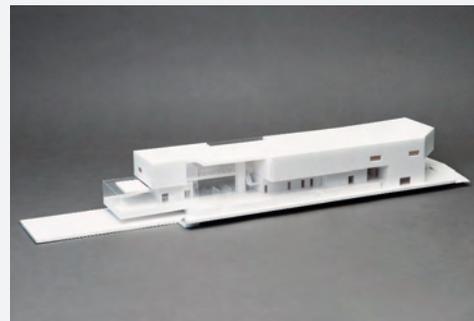
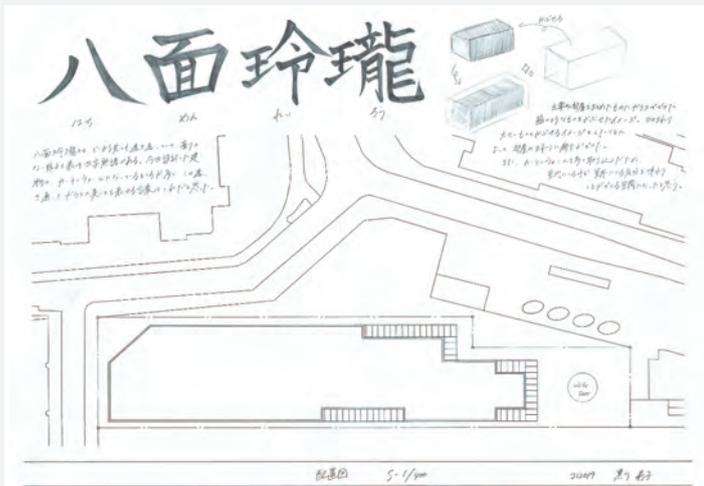


建築設計製図B 第一課題：まちの美術館：吹き抜けのある市民のためのアートパーク

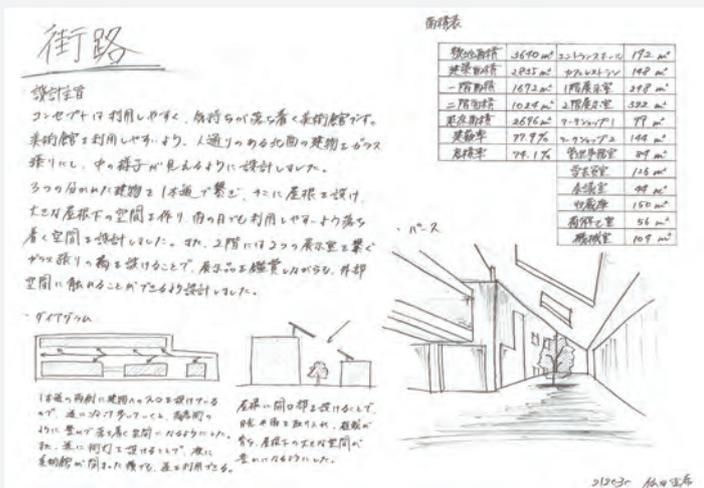
特徴的な常設展示品を選びそれにふさわしい展示空間と、加えてイベントを行う企画展示室、および市民のワークショップや作品発表等を行う場を設け、市民が気楽に身近にアートや美術に触れ合い楽しめる「美術館と広場」を提案する。計画敷地は大阪市北区中之島で、大阪中央公会堂や大阪市立東洋陶磁美術館など個性のある建物が隣接する。



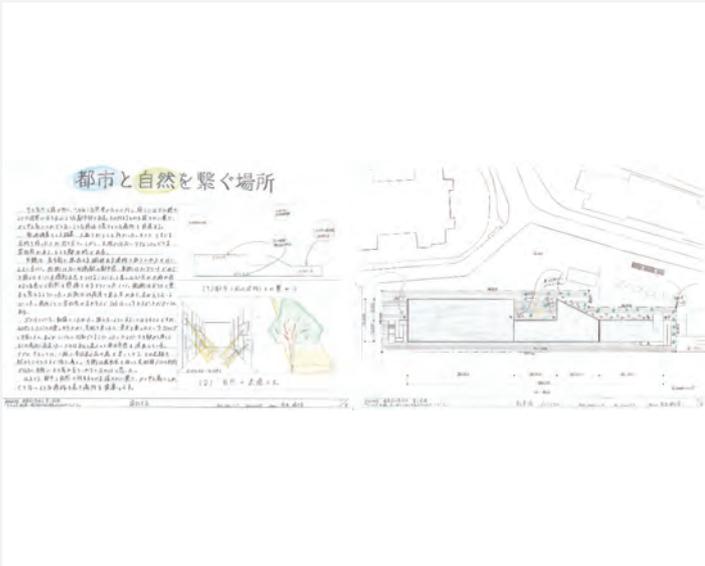
「Nakanoshima art square」 片山 美紘



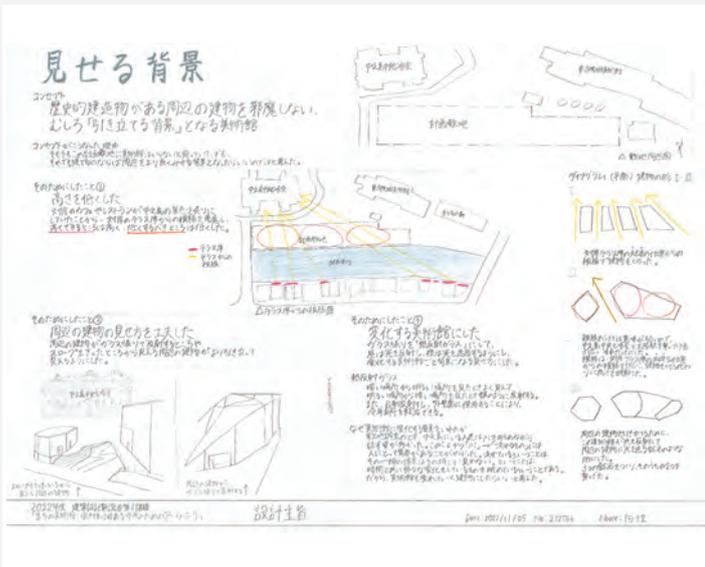
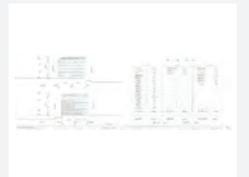
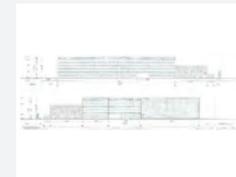
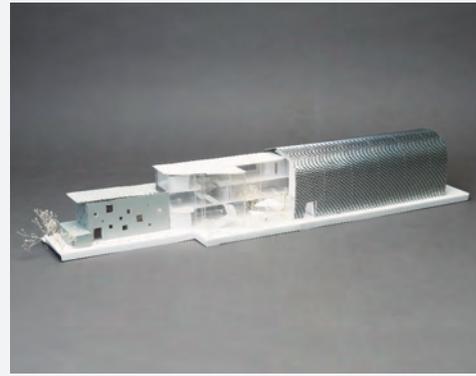
「八面玲瓏」 黒川 莉子



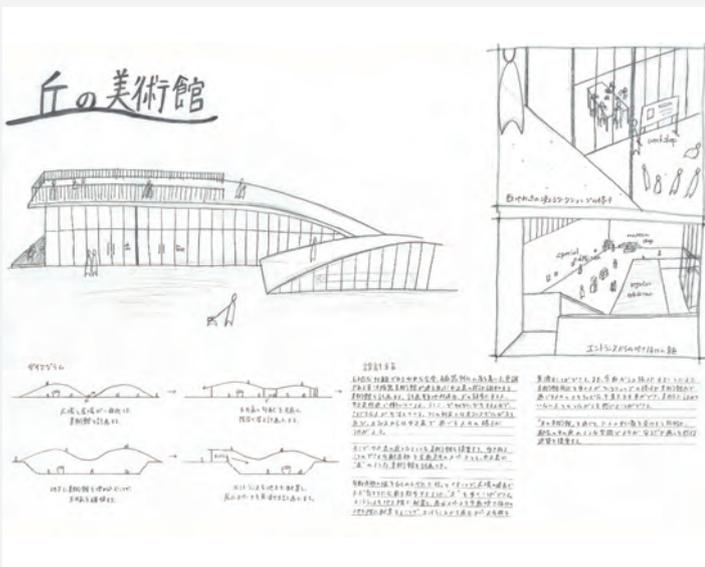
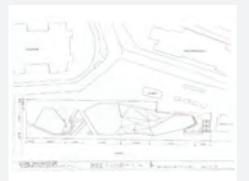
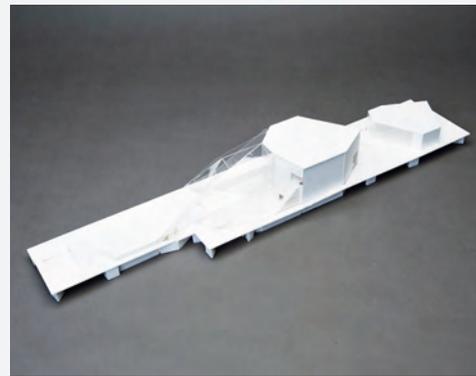
「街路」 仙田 直希



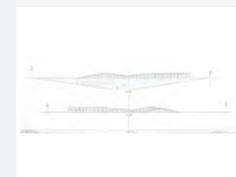
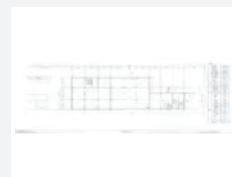
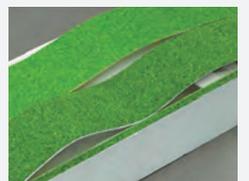
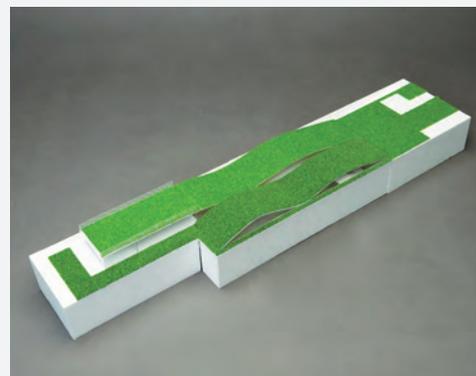
「都市と自然を繋ぐ場所」 西出 侑里香



「見せる背景」 向 千里

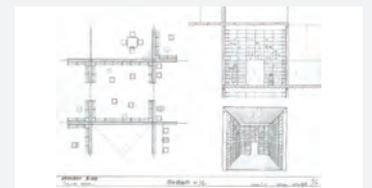
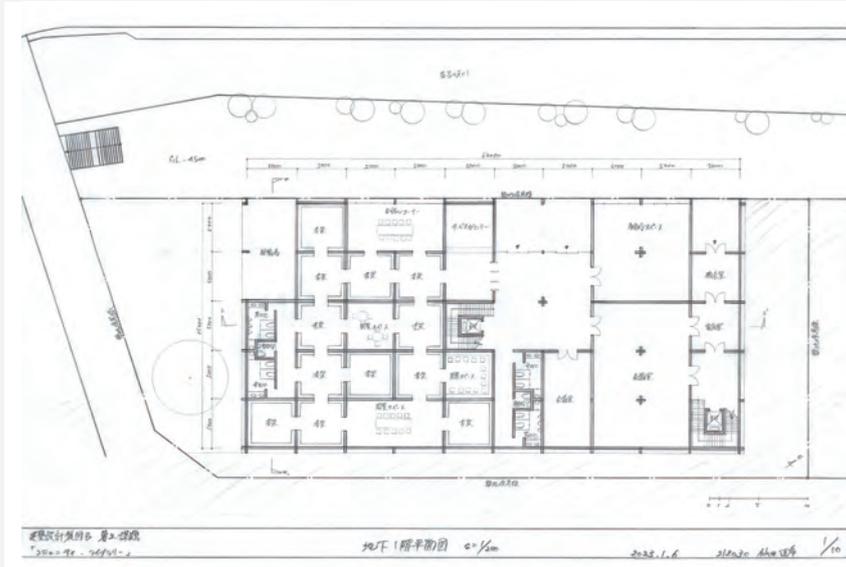


「丘の美術館」 吉田 美緒

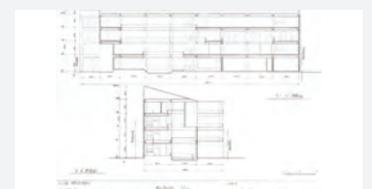
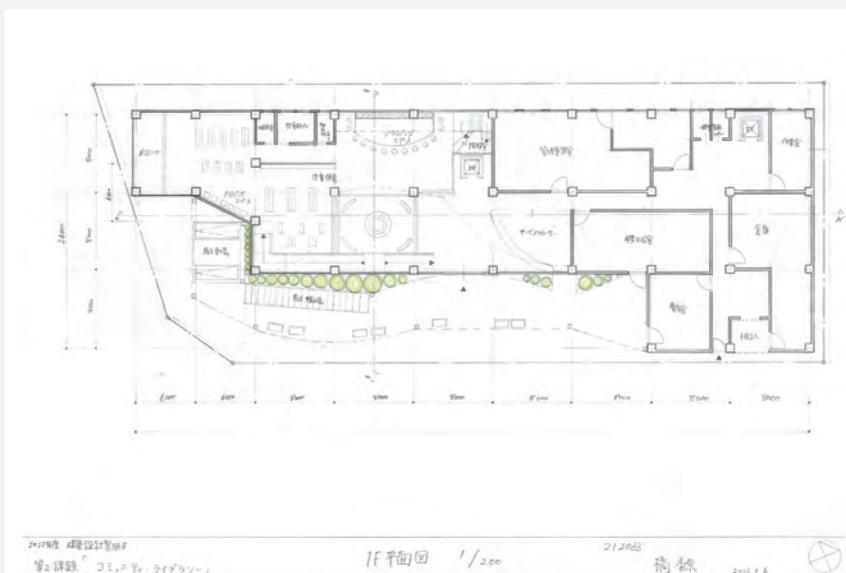


建築設計製図B 第二課題：コミュニティ・ライブラリー —混在するアクティビティー—

地域で暮らす人びとの多様なアクティビティを支える「ひらかれた公共施設」としての図書館はどのような建築だろうか。本課題では、京阪寝屋川市駅前にある寝屋川市立中央図書館および寝屋川市立駅前図書館が移転、新築されると仮定し、駅前という立地にふさわしい「コミュニティ・ライブラリー」を計画する。



[200] 仙田 直希



「空間を感じる図書館」 橘 香奈

ルーフ 屋根で繋がる

(設計要旨) インターネットが普及し、情報が必要なのはいつでも、図書館に行かなくても、自宅や学校で調べることができるようになりました。また、最新のデジタル情報も、PCやタブレットで調べることができるようになりました。このように、情報はいつでもどこでも調べられるようになりました。このように、情報はいつでもどこでも調べられるようになりました。このように、情報はいつでもどこでも調べられるようになりました。

(周辺状況) 敷地の南側は住宅街に近く、駅の南側に、敷地の北側には公園があり、敷地の西側には道路があります。敷地の北側には公園があり、敷地の西側には道路があります。敷地の北側には公園があり、敷地の西側には道路があります。

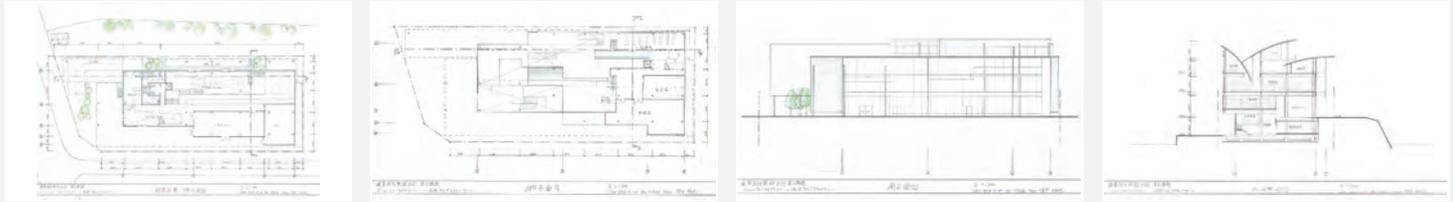
(コンセプト) 屋根の下の空間は、読書の場として活用し、読者の利便性を高める。また、屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。また、屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。

(断面①) 屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。また、屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。また、屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。

(断面②) 屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。また、屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。また、屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。

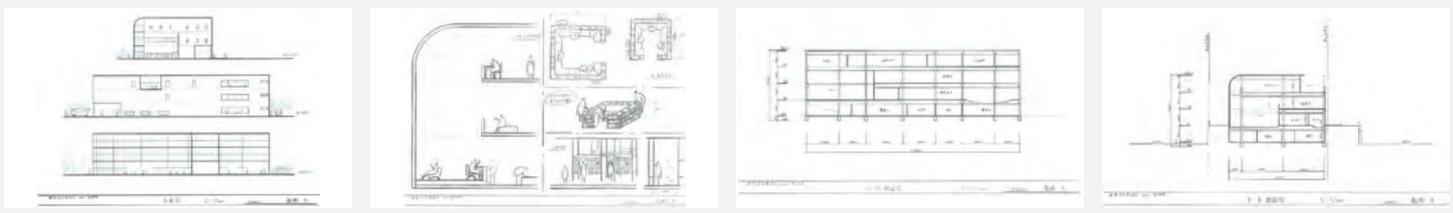
(断面③) 屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。また、屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。また、屋根の上には、読者のためのスペースを設け、読者の利便性を高める。

建築設計教団 2022 第2課題
2022.01.15 日 2022年 10月 10日 10時



「屋根で繋がる」 田中 柚衣

建築設計教団 2022 第2課題
1階平面図 S=1/200 21203 高瀬 歩



「本と、その先にあるもの - ガラスの図書館 -」 船瀬 歩

マルチな図書館

コンセプト
コミュニティ・ライブラリを模範とする。人との交流を目的とした「ゆるい読書会」としての交流を促進する。ゆるい読書会とは、メンバーの交流を促進する。ゆるい読書会とは、メンバーの交流を促進する。ゆるい読書会とは、メンバーの交流を促進する。

アイデアグラム
コミュニティ・ライブラリを模範とする。人との交流を目的とした「ゆるい読書会」としての交流を促進する。ゆるい読書会とは、メンバーの交流を促進する。ゆるい読書会とは、メンバーの交流を促進する。

敷地面積 (㎡)	4	5
建築面積 (㎡)	0	720
延床面積 (㎡)	0	3600
容積率 (%)	0	3600
建築費 (円)	100000	
坪単価 (円)	270	

2/2075 青田 茜



「マルチな図書館」 青田 茜

マチのかたち

混在する ローカルパブリックスペース

敷地外とシームレスにつなぐ

町のにぎわいの風景を作る

コンセプト
今までの図書館は本の貸出し、取集、保管などがメインだった。これからの図書館は、地域の風景と一体化して図書館でのにぎわいがマチのにぎわいへと還元されていく。地域の人たちにとってマチは見えにくい。自分たちが住んでいるマチのかたちをここを訪れて感じてほしい。「これが私たちの住む町だ。」そう胸を張って見せる。そんな町がもっとあればいいのに。地域の小さなパブリックスペースが混在して地域独自のコミュニティ経済圏が広がっていく。

ダイアグラム

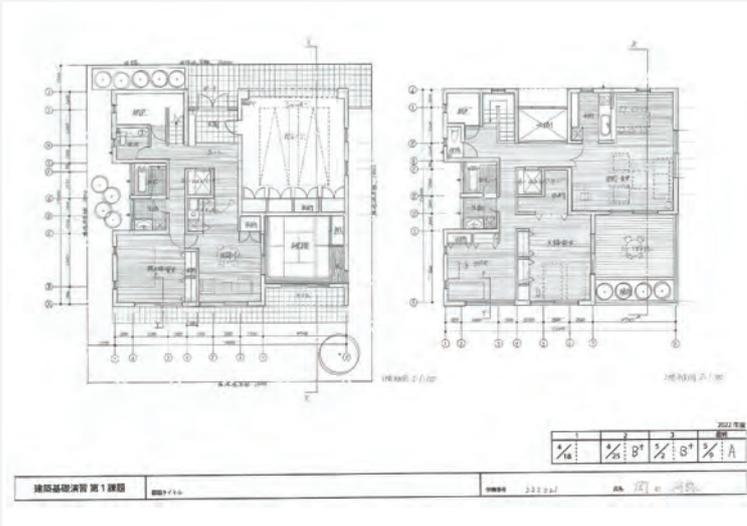
計画主旨 212081 渡邊光輝



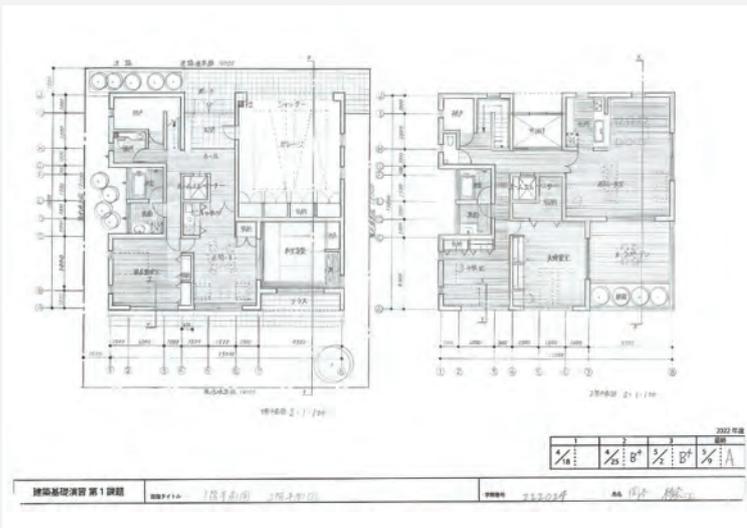
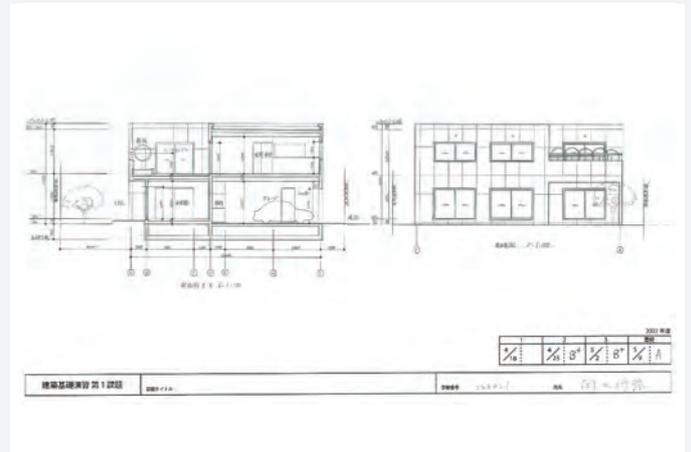
「マチのかたち」 渡邊 光輝

建築基礎演習 A 第一課題：鉄筋コンクリート造住宅の図面トレース

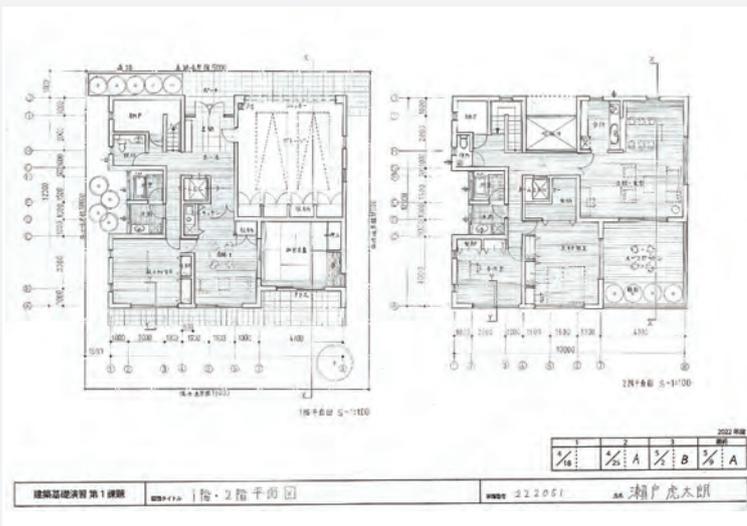
大学に入り一番最初の設計演習課題。図面表現の基本となる平面図、立面図、断面図を学ぶため、テキストにある鉄筋コンクリート造の住宅の図面をトレースする。製図台の使い方、シャープペンシルの種類、定規やその他の道具の使い方から、縮尺、線の太さや濃さによる表現の違い、寸法や文字の書き方などあらゆることを一気に伝えることになる。ここでしっかりと基本を身につけて欲しい。



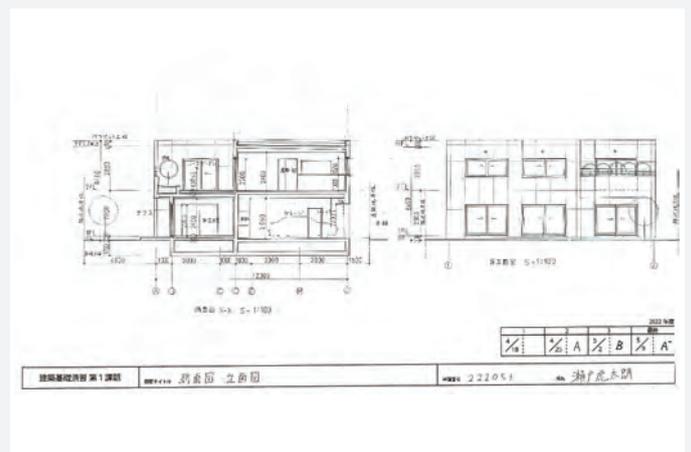
岡田 将弥

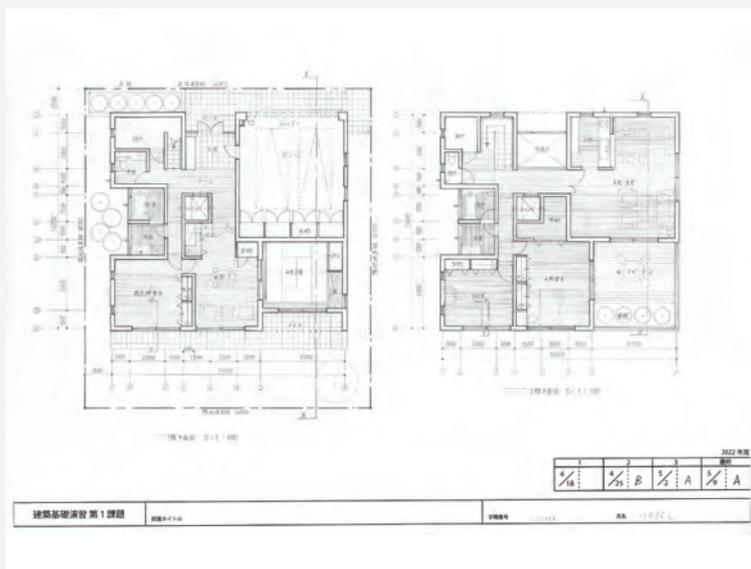


岡本 紗奈江

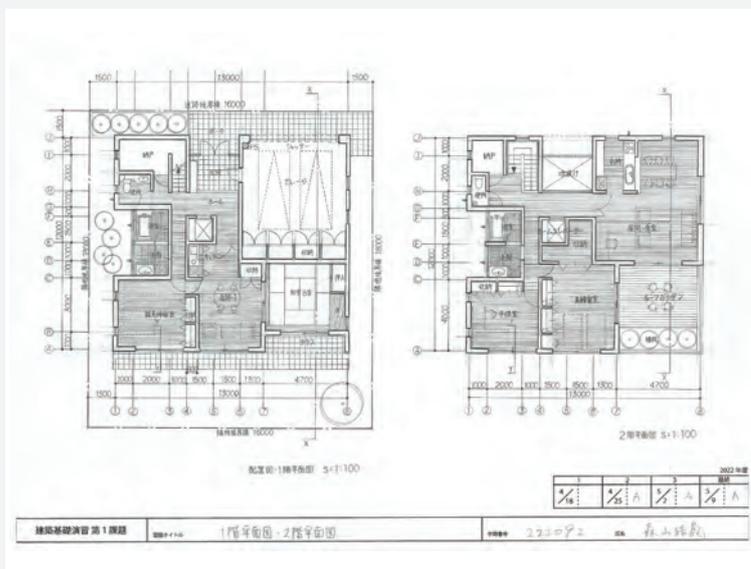
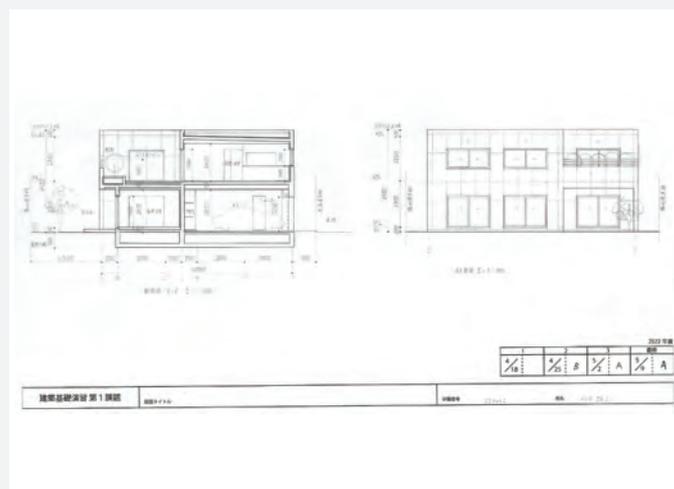


瀬戸 虎太郎

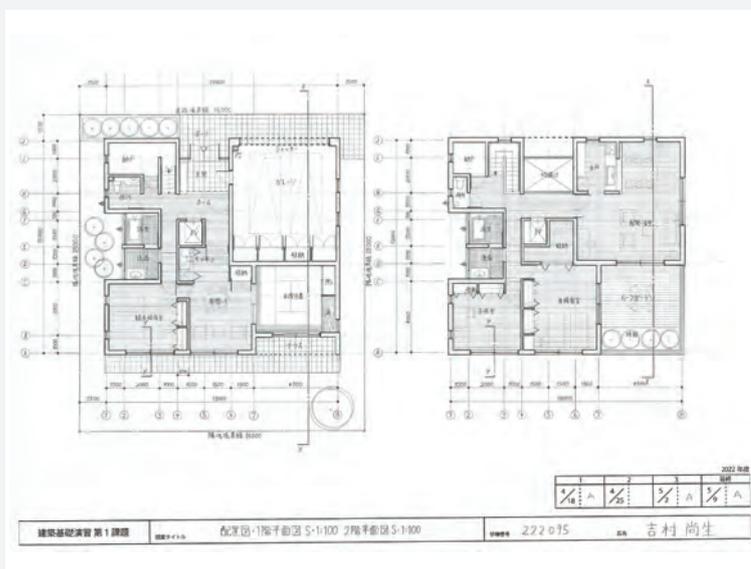




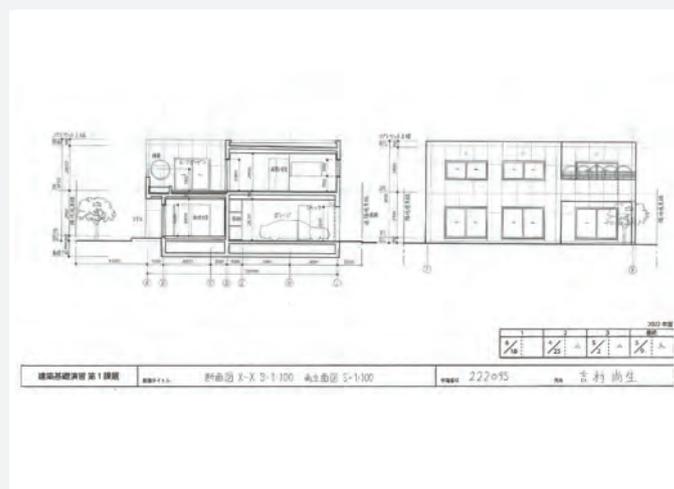
竹中 幹人



森山 皓晟



吉村 尚生



建築基礎演習A 第二課題：鉄筋コンクリート造住宅の模型の製作

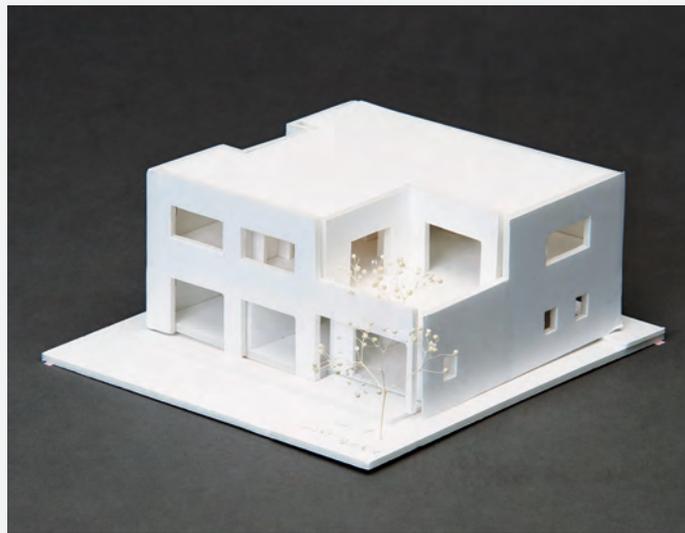
第1課題でトレースした住宅の模型を制作する。トレースすることで頭に入った図面を、今度は立体化することで空間として把握することを学ぶ。それと同時に、模型道具の種類や使い方、模型材料、接着剤などを知り、模型製作の基本的なスキルを伝えている。



國澤 晃一



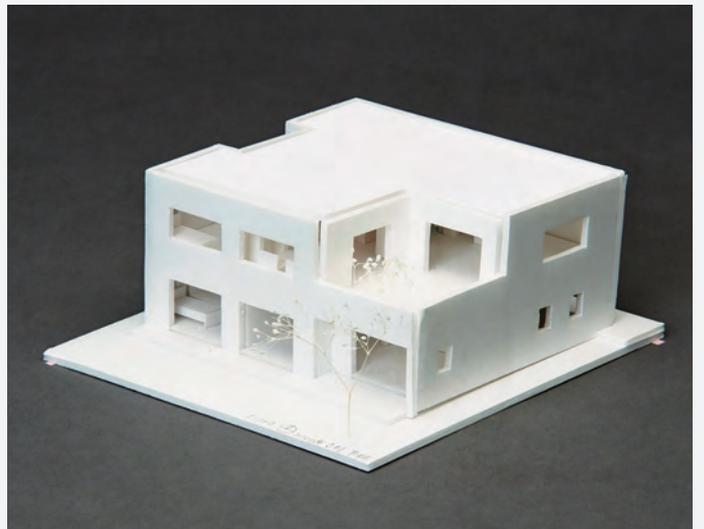
富谷 隼太



福田 梨咲



吉村 尚生



吉村 真緒

建築基礎演習A 第三課題：すわるカタチ

ダンボールを素材としたすわるカタチを制作する。単に面白いカタチを目指すのではなく、その空間や状況に映えるカタチ、体重を支える構造、素材と加工技術、すわり心地など、多くのことを考えてデザインする。身近で安価な「ダンボール」という素材の特性を活かして実寸制作することにより、デザインするとはどういうことかを体験的に理解する。



浦崎 結



瀬戸 虎太郎



姜 和志



樽井 智哉



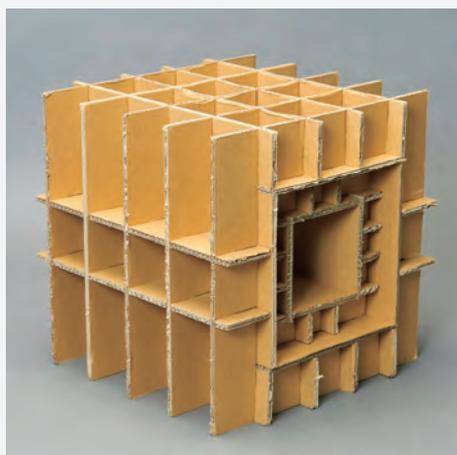
中村 美結



西村 凜



原 そよ風



田淵 丈翔

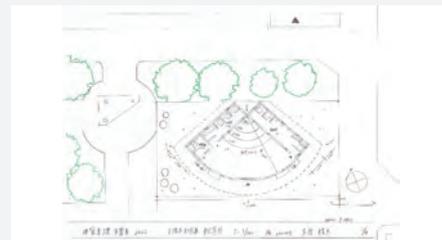
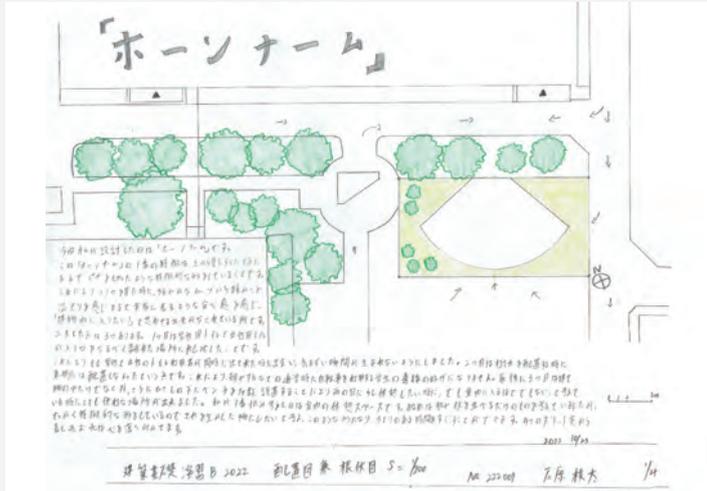


山下 真緒

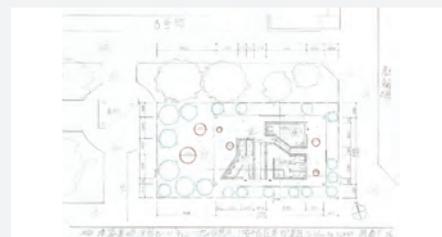
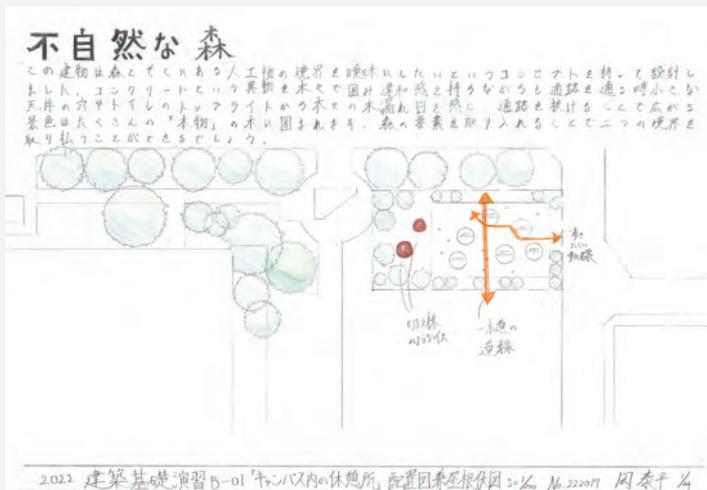
建築基礎演習B 第一課題：キャンパス内の休憩所

摂南大学は新学部開設に向け、寝屋川キャンパス内の建て替え、外部空間などの空間設備を進めている。

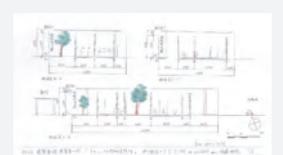
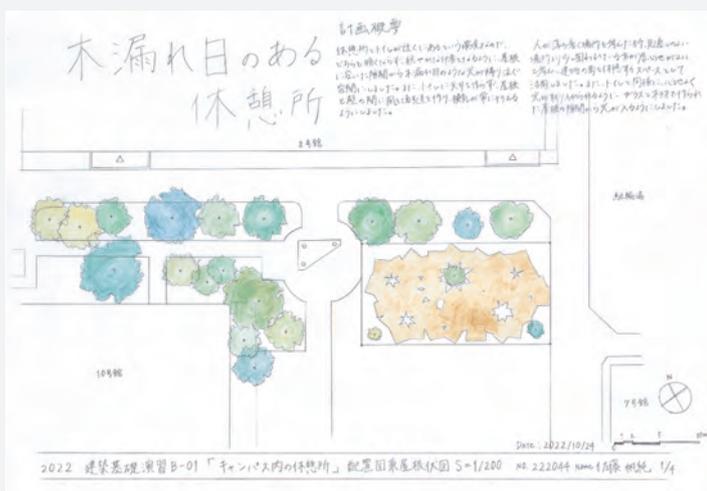
本課題では、現3号館の解体に伴い、中庭（芝生広場）と連続する8号館前にパブリックなトイレと休憩施設を計画する。キャンパス内の屋外空間利用者にとって利便性の高い場所を考える。



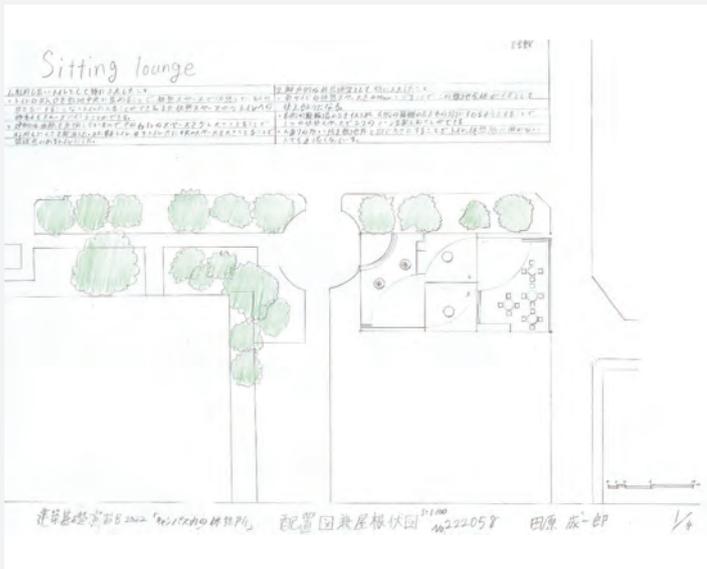
「ホームナム」 石原 稜太



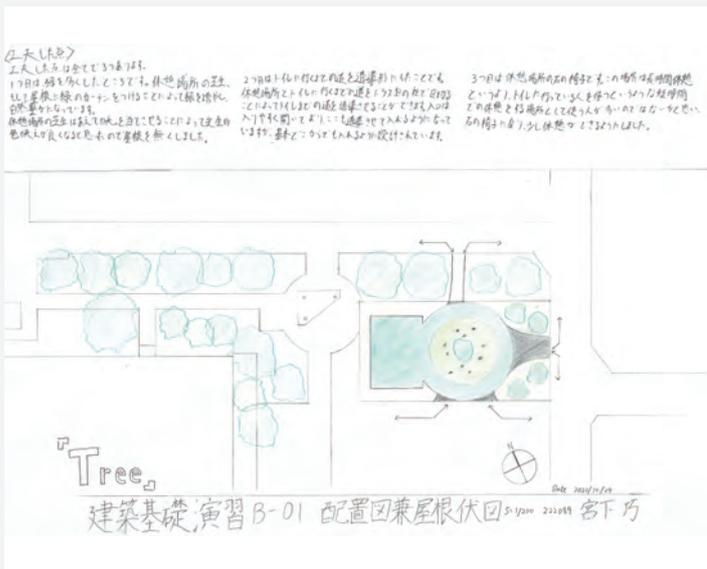
「不自然な森」 岡 泰平



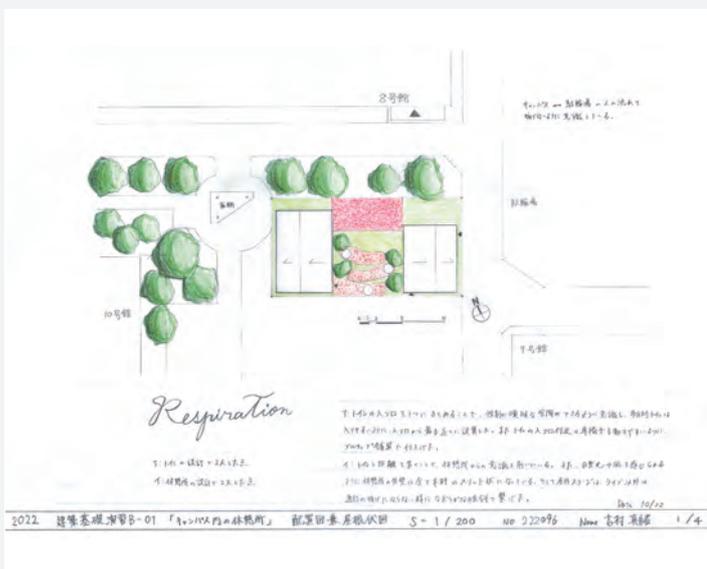
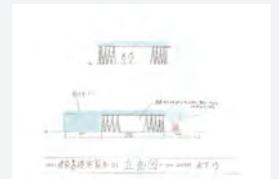
「木漏れ日のある休憩所」 佐藤 帆純



「Sitting lounge」 田原 成一郎



「Tree」 宮下 巧

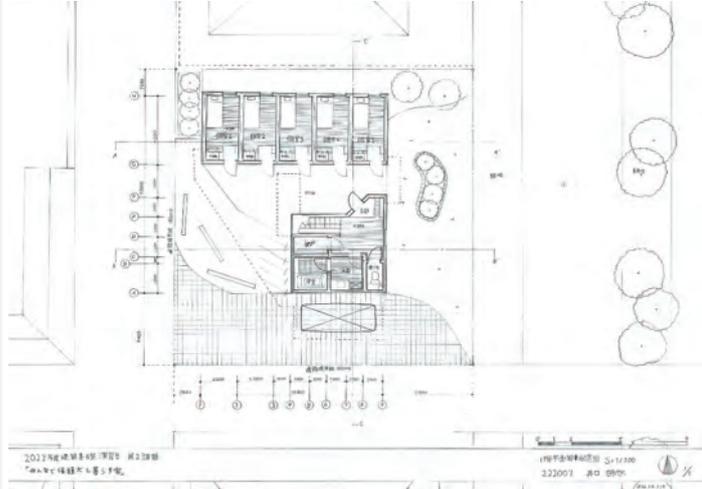


「Respiration」 吉村 真緒

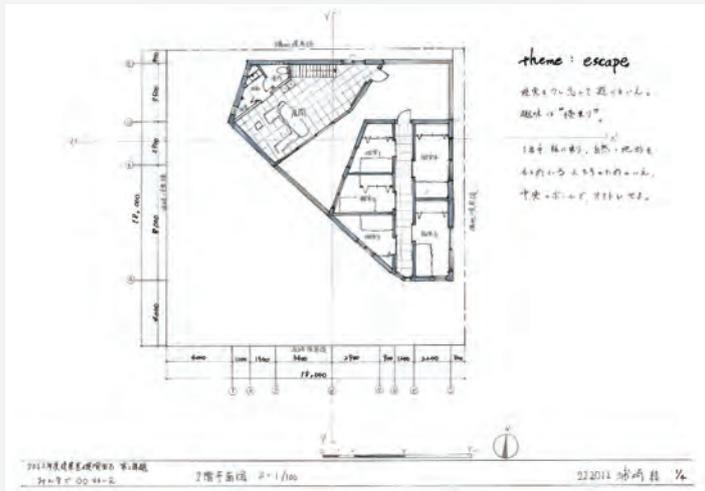


建築基礎演習B 第二課題：みんなで〇〇をするいえ

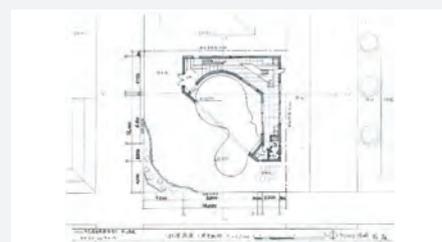
伝統的住宅の名残りを感ずる地区に、新たな住人のためのいえを計画する。敷地周辺の川、緑地、桜並木、伝統的な門塀など既存の資源を大切に、角地に建ついえがまちに優しく、新しい住人が豊かな暮らしを実現できるいえを考えてほしい。なお、住人は必ずしも家族でなくてもよい。



「みんなで保護犬と暮らす家」 井口 皓帆



「theme:escape 現実を少し忘れて遊べるいえ」 浦崎 結

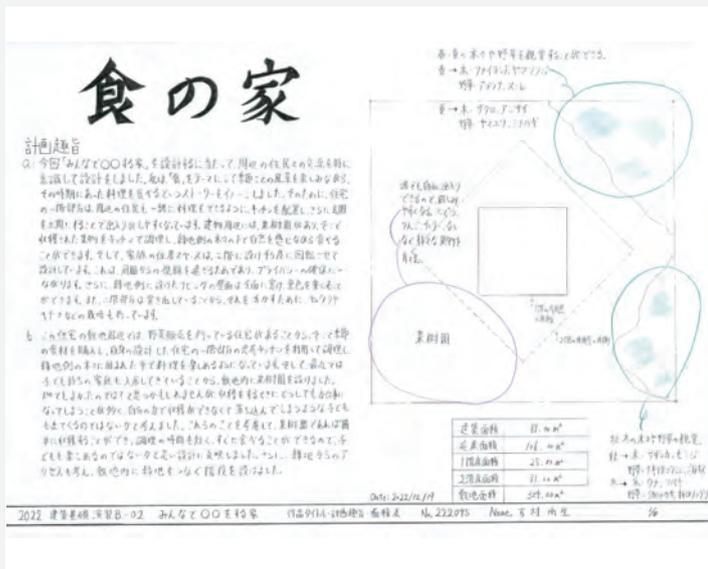


「皆で助け合う開放的な家」 児玉 武士

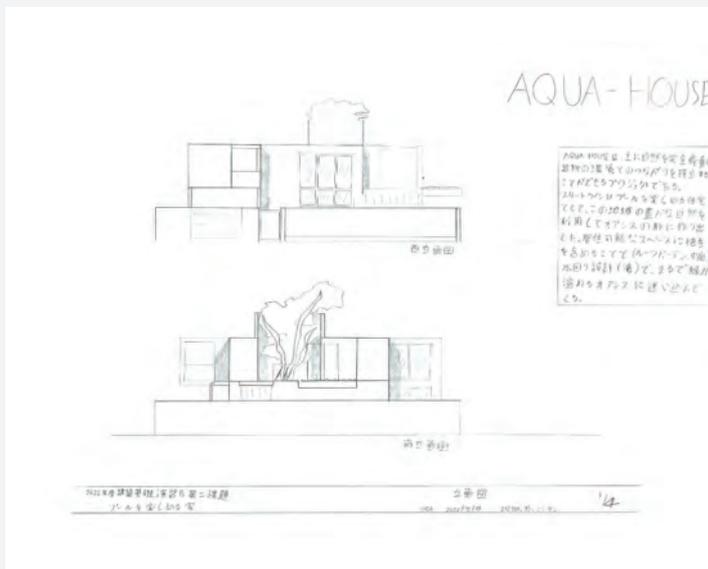




「みんなで音楽を楽しむ家」 中郷 陽咲



「食の家」 吉村 尚生



「AQUA-HOUSE」 ゲン ミン タン



豊里町 Renovation Project 都市文化共生デザイン研究室

改修前



道路から向かって右側に位置する増築部分は取り壊し、土間とつながる広間へと改修した。



その他、水回りや玄関の位置も大きく見直した。



2階に上がる階段は、そのまま残し、2階の天井は取り壊しロフトを設置した。

初期案



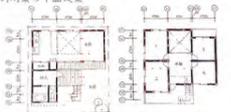
初期案では、子ども食堂シェアハウスという案が出ていた。これらは、周辺環境や子どもなど、街を巻き込んで学生にも取り組めることはいかに考えた提案で、完成案にも取り入れられている部分もある。

子ども食堂シェアハウス概要

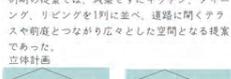
- 小学校が近くにある
- 地域に対して学生にできることはないのか
- 父子家庭、母子家庭など1人でご飯を食べる子供が多い

“子ども食堂”という選択

初期案の平面提案



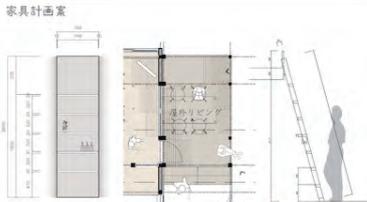
初期の提案では、試案せずにキッチン、ダイニング、リビングを1列に並べ、道路に開くテラスや前庭とつながり広々とした空間となる提案であった。



1Fと2Fの公私を明確に分離する。この公私分離の案は、完成案にも採用されている。

学生制作部分

家具計画案



脱衣所収納棚 ウッドデッキ平面図 ロフトはしご

家具の初期案では、脱衣所収納棚、土間収納、キッチンカウンター、ウッドデッキ、ダイニングテーブル、ロフトはしごを学生制作する予定だった。結果、ロフトはしごが学生制作として実現された。

初期外構外壁計画案



外構計画の初期案では透水レンガを使用することで、ウッドデッキと土間の一体感ができるように計画した。

模型









A-A断面図 scale 1:100



東立面図 scale 1:50



南立面図 scale 1:50

建築学科 卒業研究作品展 16

2022年度の卒業研究作品展を、2月4日から6日までの3日間、寝屋川キャンパス8号館4階にて開催した。4日には、卒業論文・卒業設計に分かれゲスト2名ずつをお迎えし対面でのゲスト講評会を行った。保護者の方々にもお越しいただき、学生生活の集大成である卒業研究の成果を感じていただける貴重な機会となった。

※ポスターデザイン：宮添燎海



- | | |
|--|---|
| <p>ゲストコメンテーター</p> <p>□論文</p> <p>伊熊昌治先生（伊熊昌治建築設計事務所・本学非常勤講師）</p> <p>福井弘久先生（国立研究開発法人防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センター・本学非常勤講師）</p> | <p>□設計</p> <p>魚谷剛紀先生（Uo.A・本学非常勤講師）</p> <p>吉永規夫先生（Office for Environment Architecture・本学非常勤講師）</p> |
|--|---|

卒業論文

- 1 石本 快里 堺市総合防災センターの活用方法に関する考察 ～全国の防災センター調査を基に～
- 2 坪井 寛太 地震による建築設備被害事例の分析
- 3 土居 航大 全国のジオパークを対象としたジオサイトの分類
- 4 福永 拓海 大地震発生後における自転車を活用した緊急出勤ルートの検討
- 5 山田 翔太 摂南大学寝屋川キャンパスの避難時における階段利用に関する考察
- 6 梶原 一心 若年世代の賃貸住宅に対するニーズ分析
- 7 川見 蓮次郎 摂南大学寝屋川キャンパスにおけるコモンスペースの空間的特徴と利用に関する調査研究
- 8 二宮 剛己 大衆演劇場の設置と劇場空間に関する研究 ～大阪府下の大衆演劇場を対象として～
- 9 平田 伊織 高齢年UR団地における若年層転入促進に関する研究
- 10 向坂 歩乃佳 大阪府における放課後等デイサービスの設置と施設空間に関する研究
- 11 井坂 考泰 海浜公園におけるごみの投棄行動の環境要因と改善誘発デザインの提案
- 12 金丸 綺竜 建築物ファサードに用いられるガラスのデザインと構成
- 13 川上 裕基 大阪市における総合設計制度許可建築物の特徴と周辺配慮に関する研究
- 14 前田 幸十 DIY普及に寄与するホームセンターのユーザー支援の在り方について
- 15 山口 大翔 立地の特徴から見たAirbnbとホテルの違い 一周辺環境との関係に着目して一
- 16 地蔵 翔太 BYODを前提とした大学キャンパス学習環境の提案
- 17 森藤 優 図書館における書架の配置と運営実態
- 18 入江 統真 エネルギー評価による静的解析と動的解析との対応に関する研究
- 19 大矢 愛佳 水平力が作用する大屋根の支持構造が及ぼす影響についての考察
- 20 古閑 優斗 ベタ基礎の解析手法の違いが基礎梁応力に及ぼす影響に関する研究
- 21 鈴木 馨斗 超高層RC造免震構造建物における耐震壁の効果に関する研究
- 22 中村 嘉伸 二方向曲げを受ける柱部材の耐力および損傷に関する解析的検討 一軸力0の場合一
- 23 堀口 翔弥 各階の偏心率が異なる場合の性状に関する研究
- 24 吉田 悠史 近年の超高層建物の構造特性データに関する考察
- 25 杉浦 瑞紀 古着を断熱材として用いた時の断熱性能の向上に関する研究
- 26 中田 伸哉 アンケート調査による暑がり・寒がりの体質と住環境履歴の関係性を把握する研究
- 27 森山 大也 緑のカーテンによる遮熱効果が総合体育館の室内環境に及ぼす研究
- 28 久木野 勇樹 耐震スリットに残存部を有する腰壁付きRC柱の構造性能に関する実験的研究 その1 接合部断面を変数とした場合
- 29 浮田 俊也 耐震スリットに残存部を有する腰壁付きRC柱の構造性能に関する実験的研究 その2 柱幅を変数とした場合
- 30 梅田 崇弘 ビニロン繊維を混入させた壁板の耐力と変形性能による実験的研究
- 31 運天 倭 ビニロン繊維を混入した鉄筋とコンクリートの付着性能に関する実験的研究
- 32 大島 康佑 丸鋼を用いたX形配筋短スパン梁の曲げ降伏後の変形性能に関する実験的研究
- 33 重定 克典 鋼材を用いてせん断補強した短スパン梁のせん断耐力に関する実験的研究
- 34 平野 歩 分割PCa壁板の曲げ耐力に関する実験的研究 その1 縦横比を変数とした場合
- 35 寺井 彰仁 分割PCa壁板の曲げ耐力に関する実験的研究 その2 コンクリート強度およびすべりの有無を変数とした場合

卒業設計

- 1 井 浪 千 尋 船待つ蔵 一天橋立におけるウォークアブルな空間の提案—
- 2 千 崎 裕 太 あきん廊 ～豊富な地域資源を発信する道の駅～
- 3 速 水 いお梨 京都・祇園 商業施設建替計画
- 4 井 上 舞 香 編む ～地域を繋ぐ架け橋～
- 5 榎 本 来 真 音楽が誘う非日常空間 ～街と繋がるライブハウス～
- 6 黒 田 健太郎 無意識への帰結 ～劇場型広場の身体化～
- 7 小 傳 茂 友 貴 個と全の共創 ～道広場のプロトタイプ～
- 8 米 田 朱 里 巡り廻る ～駅前広場の再編～
- 9 佐 藤 快 斗 ウラをつなぐ路地建築 ～櫓より見渡す祇園庭園～
- 10 中 西 立 龍 縦型商店街 ～公と私のグラデーション～
- 11 東 賢太郎 その場所で学び、経験する ～子どもの居場所と地域の共存～
- 12 近 藤 和 真 第2のLEGO社をつくる ～創造を生む空間～
- 13 澤 紫 月 建築全体に想像力と遊びを
- 14 照 井 沙 妃 USJの裏に彩りを
- 15 西 原 大 翔 山と一体になる
- 16 高 橋 晴 大 銭湯物語 ～民衆の小さな楽しみ～
- 17 肥 田 顕 悟 まちを描く建築
- 18 増 田 翔 自然との架け橋
- 19 湊 綾 香 淀川流域における散歩空間の計画
- 20 望 月 誠 太 CIRCULAR CITY ～木で創る近未来の暮らし～
- 21 浅 野 心 咲 伝統工芸との邂逅 その場所の記憶を受け継ぎ、伝統工芸と建築との繋がりを生み出す
- 22 桂 瑛 ひと繋ぎの山道 失われた緑地を地域へと開く
- 23 木 田 歩 夢 つながりのシェアハウス 大学生の新しい出会いのきっかけの場
- 24 椎 木 椋 太 RURBAN DESIGN 生産緑地を持続可能にするスキームを築き、未来に遺す
- 25 山 本 修 鶴橋商店街の再興計画 —商店街の新たなかたち—
- 26 ケアヌ アリヤ タノ OCEANVILLE 水位レベル問題を解決する新しい居住地への強靱で多様なグリーン都市
- 27 尾 松 優 保 暮らしの環境ポテンシャル
- 28 辻 隼 斗 伊丹空港周辺を「カフェ・ミュージック・広場」でより賑やかに

■ 2022年度 設計演習・造形演習課題一覧

- 1年生(前期) 建築基礎演習A** 第1課題：鉄筋コンクリート造住宅の図面トレース
第2課題：鉄筋コンクリート造住宅の模型の製作
第3課題：すわるカタチ
- 1年生(後期) 建築基礎演習B** 第1課題：キャンパス内の休憩所
第2課題：みんなで○○をするいえ
- 2年生(前期) 建築設計製図A** 第1課題：SU Visitor Center～通り抜けできるキャンパス～
第2課題：中之島公園を臨むワークプレイス
- 2年生(後期) 建築設計製図B** 第1課題：まちの美術館：吹き抜けのある市民のためのアートパーク
第2課題：コミュニティ・ライブラリー ―混在するアクティビティ―
- 3年生(前期) 建築設計演習A** 「学校の再構築」
前半課題：グループ課題 課題前提条件をまとめ、目指すべき学校像を導き出す
後半課題：個人課題 小学校の設計
- 3年生(後期) 建築設計演習B** 第4課題：地域の拠点となる建築
魚谷スタジオ：「介護福祉」
小野スタジオ：「シンボル性」
岸下スタジオ：「文化・芸術」
武田スタジオ：「商圈」
水上スタジオ：「公共(行政)」
白須スタジオ：「交通」
- 4年生(通年) 卒業設計**

■ 2022年度 摂南大学 建築学科スタッフ

専任		設計演習担当非常勤講師		
教授	池内 淳子 西村 勝尚 (建築設計製図B) 大谷 由紀子 (建築基礎演習A・B 建築設計製図A 建築設計演習B) 加嶋 章博 (建築基礎演習A・B 建築設計製図A・B) * 木多 彩子 (建築基礎演習A・B 建築設計製図A・B) 宮本 征一 柳沢 学	池田 久司 (建築基礎演習A) 斉藤 智士 (建築基礎演習A) 佐藤 伸也 (建築基礎演習A 建築設計製図B) 武田 憲人 (建築基礎演習A 建築設計演習B) 稲田 真善 (建築基礎演習A) 丹羽 洋文 (建築基礎演習A) 駒井 陽次 (建築基礎演習B) 小松 一平 (建築基礎演習B) 杉山 圭一 (建築基礎演習B) 高木 章寛 (建築基礎演習B) 門間 香奈子 (建築基礎演習B) 山根 健太郎 (建築基礎演習B) 京 健 (建築設計製図A) 戸田 聡 (建築設計製図A) 中西 ひろむ (建築設計製図A) 古川 晋也 (建築設計製図A) 前田 祐希 (建築設計製図A) 太田 翔 (建築設計製図A) 西井 洋介 (建築設計製図B) 藤田 慶 (建築設計製図B) 堀 賢太 (建築設計製図B) 好川 拓 (建築設計製図B) 貴志 泰正 (建築設計製図B) 井上 久実 (建築設計演習A) 吉永 規夫 (建築設計演習A) 水上 和哉 (建築設計演習A 建築設計演習B) 矢田 朝士 (建築設計演習A) 山口 尚之 (建築設計演習A) 魚谷 剛紀 (建築設計演習B) 小野 龍人 (建築設計演習B) 岸下 真理 (建築設計演習B)		
准教授	小林 健治 (建築基礎演習B 建築設計製図A・B 建築設計演習A)			
講師	* 白須 寛規 (建築基礎演習A 建築設計製図B 建築設計演習A・B)			
建築学科共通準備室	中尾 千紗子 伊藤 朋子 長崎 麻子 * 真木 美穂子			

* 作品集編集担当

2022年度 摂南大学 理工学部 建築学科 作品集 Design Works '22/'23

2023年3月22日 発行

発行 摂南大学理工学部建築学科 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8

印刷 能登印刷株式会社

D e s i g n W o r k s ' 2 2 / ' 2 3

D e p a r t m e n t o f A r c h i t e c t u r e

S E T S U N A N U N I V E R S I T Y

2 E L 2 N N V N N N I A E B 2 I L A

D e b s i f w e u f o t v l c p i f e c f n l e

D e s i g n W o r k s ' 2 2 / ' 2 3